

科目基本情報	科目名 アメリカの社会と文化	期別 後期	曜日・時限	単位 4
	担当者 クレイグ K ジェコブソン	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	

学びの準備	ねらい This course is designed to assist students in learning about American society and culture and America's influence in the world. Extensive use will be made of audio visual materials depicting various aspects of American life.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Course Registration and Introduction	
	2	Intro to American Society & Culture	
	3	American Geography	
	4	Exam I Map Quiz	
	5	The Native People of America	
	6	Pocahontas	
	7	Europeans Arrive	
	8	Dances with Wolves	
	9	American Expansion on the Continent	
	10	American Expansion on the Continent	
	11	Exam II	
	12	American Expansion around the World	
	13	American Expansion around the World	
	14	Born on the Fourth of July	
	15	American Military Culture and Guns	
	16	Bowling for Columbine	
	17	Exam III	
	18	The Dominant Culture in America	
	19	Minority Cultures in America	
	20	Challenges to the Dominant Culture	
	21	Malcolm X	
	22	Slavery in American	
	23	Amistad	
	24	African American Society and Culture	
	25	Exam IV	
	26	American Religious Culture	
	27	30 Days with American Muslims	
	28	Gay Society and Culture in America	
	29	30 Days in the Castro	
	30	American Car Culture	
31	Exam V		

	<p>テキスト・参考文献・資料など The text for this class will be available from the instructor.</p>
<p>学 び の 実 践</p>	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価 Students will be evaluated based on attendance, class participation and written exams. The written exams will consist of comprehension questions based on the textbook and essays based on issues discussed in class, from the textbook and from films. Missing one exam will not affect your grade.</p>
<p>学 び の 継 続</p>	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アメリカ文学史	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	2年		

学びの準備	ねらい アメリカ文学の流れを概観し、主要作家の作品を鑑賞する。植民地時代・独立戦争時の歴史背景から始め、19世紀、特にアメリカン・ルネサンス期の作家・作品の講読を通して、「アメリカの良質な知的財産」に触れ、その理解を図る。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業では、テキストの中の作家についての説明文と作品を、基本的に英語の原文を用いて読み進む。グループによる発表を中心に、個人指名による質問を含めた授業を行うので、必ず予習をしてくる。授業での質問に対して、ある回数以上答えられない者には、単位を与えない。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>プリント教材を使用する。 横沢四郎他『概説アメリカ文学史』金星堂、1981年 その他、適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>中間試験：33%、期末試験：各33%、グループ発表及び授業中の指名に対する応答や発言：34%</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	イギリスの社会と文化	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ピーター シンプソン	2年		

学びの準備	ねらい This class is intended to give students an opportunity to explore contemporary issues in British culture and society and reflect upon their relevance to contemporary societies elsewhere, particularly Okinawa and Japan.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) In collaboration with the teacher, students will be expected to produce a bilingual group project and a final individual report (in English) focusing on an area of their choice. A number of themes will be proposed, but these are highly negotiable.
	テキスト・参考文献・資料など No textbook is prescribed for this course.
	学びの手立て
	評価 Assessment will be based on the following: * assignments relating to course content * attendance and participation

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	イギリス文学史	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-伊波 和正	2年		

学びの準備	ねらい この講座は、イギリス文学史上の重要な作家や作品を概観しながら、文学作品の背景にあるイギリスの社会や歴史についての知識を深め、文学史の流れを掴むことを目的とする。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1週 授業説明</p> <p>第2週～7週 *下記の項目に沿ってイギリス文学史を学ぶ。 *下記の項目について、受講者にグループで発表してもらう。 *文学作品の読解や映画鑑賞を取り入れ、重要な作家や作品について詳しく学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古英語・中英語の文学 2. ルネサンスの散文と詩 3. 演劇が起こる 4. シェイクスピア 5. 清教徒革命まで 6. 王政回復期 7. 18世紀の散文、詩、劇 <p>第8週 中間テスト</p> <p>第9週～15週</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 小説の誕生、そして成長 9. ロマン主義時代 10. ヴィクトリア朝期の詩と散文 11. ヴィクトリア朝の小説 12. 第二次大戦までの小説 13. 第二次大戦までの詩と劇 14. 戦後の文学 <p>第16週 期末テスト</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>川崎寿彦『イギリス文学史』成美堂 参考文献は授業中に紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>出席・授業参加10%、発表10%、中間テスト40%、期末テスト40%、</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	異文化理解 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ダグラス トライスタット	3年		

学びの準備	ねらい 本講義では、自分とは異なる文化を持つ様々な人たちのライフスタイルや価値観などを認識させ、異文化への気づきを促すこと及び異文化に対する理解能力を高めることを目標とします。日本人と外国人の生活や文化などの相違に気づかせるクイズ、グループワーク、映画鑑賞、調査発表などを通して異文化社会の多様性と現実を学びます。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	異文化ってなに？	
2	外国人が感じる日本の「ふしぎ」		
3	英語で遊ぼう		
4	ネイティブスピーカーの知らない英語		
5	知っておきたい英語の知識		
6	異文化の共通点・相違点を探そう！（1）		
7	” （2）		
8	常識から非常識へ		
9	映画鑑賞：外国人のユーモア		
10	学生発表・評価（1）		
11	” （2）		
12	” （3）		
13	” （4）		
14	” （5）		
15	” （6）		
16	” （7）		
	テキスト・参考文献・資料など		
	学びの手立て		
	評価 出席率及び授業参加態度（50%）、プロジェクト及び口頭発表（50%）により総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	異文化理解Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ダグラス トライスタット	3年		

学びの準備	ねらい 前期の「異文化理解Ⅰ」に続き、本講義では、自分とは異なる文化を持つ様々な人たちのライフスタイルや価値観などを認識させ、異文化への気づきを促すこと及び異文化に対する理解能力を高めることを目標とします。日本人と外国人の生活などの相違に気づかせるクイズ、グループワーク、映画鑑賞、調査発表などを通して異文化社会の多様性と現実を学びます。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
2	英語の「構え」でコミュニケーション		
3	生活文化から生じるコミュニケーション・ギャップ		
4	知っておきたい一般知識		
5	映画鑑賞：異文化間に生じる諸問題を考えよう！（1）		
6	” （2）		
7	” （3）		
8	” （4）		
9	学生発表・評価・Q&A（1）		
10	” （2）		
11	” （3）		
12	” （4）		
13	” （5）		
14	” （6）		
15	” （7）		
16	” （8）		
	テキスト・参考文献・資料など		
	学びの手立て		
	評価 出席率及び授業参加態度（50%）、プロジェクト及び口頭発表（50%）により総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Grammar I	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 和文	1年		

学びの準備	ねらい テキスト『伝えるための英文法・英作文(Grammar for Communication)』(朝日出版)を主教材として用い、日常起こりうる会話場面を題材にしたコミュニケーション演習を行いながら英文法の基礎知識を身につけていく。ペアまたはグループによるスキット台本の作成・発表を行い、学んだ文法知識を実際の対話に活かすことができるようになる。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Week 1: Course Orientation, Unit 1-Initiating/closing a small talk	
	2	Week 2: Unit01 & 2-Emphatic Expressions, etc.	
	3	Week 3: Unit03-Conjunctions	
	4	Week 4: Unit04-Verbs: Past Tense	
	5	Week 5: Unit05-Verbs: Future Tense	
	6	Week 6: Unit06-Express Yourself with Sense Verbs	
	7	Week 7: Unit07-Causative Verbs	
	8	Week 8: Unit08-Reporting Verbs / Midterm Examination	
	9	Week 9: Unit09-Nouns	
	10	Week10: Unit10-Prepositions	
	11	Week11: Unit11-Adjectives & Adverbs to Express Your Feelings	
	12	Week12: Unit12-Verbs: Progressive	
	13	Week13: Unit13-Articles	
14	Week14: Unit14-Sentence Structure: Word Order		
15	Week15: Unit15-Sentence Structure: Adding More Information		
16	Week16: Final Examination		
テキスト・参考文献・資料など 『伝えるための英文法・英作文-Grammar for Communication-Weaving It All Together-』朝日出版(¥1,700)朝野書房にて販売します。 開講日および、講義の中で適時紹介します。			
学びの手立て			
評価 - Review Quiz 40% - Midterm/Final Examinations 30% - Vocabulary Notebook 20% - In-class Participation 10%			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Grammar I	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	1年		
学びの準備	ねらい 中学校・高等学校で履修した文法事項を活用しながら復習するとともに定着を図ります。	メッセージ		
	到達目標			
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 授業前半は、ペア・グループでドリル、スピーキング活動を通して文法事項の復習を行います。授業の後半は指定のテキストの担当箇所の内容についてグループ発表と全体討議を行います。（授業前半と後半の内容を入れ替えることもあります）			
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で連絡します。 授業の中で紹介します。			
	学びの手立て			
	評価 出席状況、発表、クイズ、提出物を総合的に評価します。			
学びの継続	次のステージ・関連科目			

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	English Grammar I	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-島袋 美智子	1年		

学 び の 準 備	ねらい 英語の理解、発話に文法は必須です。楽しく学べるグラマールクラスを目指します。まず基本的な文法事項を学び、ブレインストーミングを行い、練習問題をペアワーク、グループワークで行います。読み物を使用し単語力増強を図ります。リーディングにおける素早い理解力養成を目指します。	メッセージ
	到達目標	

学 び の 実 践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1週 英語の文法について、単語増強について、学習メソッドについて説明。 （メソッドは良い学習習慣のために重要と考えますので最初の週をミスしないこと） 2-3週ごとにシラバスを配布しますので学習の予習に役立ててください。</p> <p>第2週～7週、9週～15週 下記の文法事項について学び、様々な例文を発話する。練習問題はペア、もしくはトリオで行う。 Be 動詞と人称による変化、現在進行形、一般動詞の使い方、一般動詞の変化、否定形や疑問文の作り方、Be動詞の過去形、一般動詞の過去形、過去進行形、現在完了形とは、受動態、能動態、未来形、助動詞の使い方、など。 ※質問はクラス内で随時受付ますので、疑問を残さないようにしてください。</p> <p>第 8週 中間テスト（予定） 第16週 期末テスト（予定）</p>
-----------------------	---

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>1. "Essential Grammar In Use" with answers and CD-ROM Third Edition by Cambridge University Press 2. "Food In History" 初版 英宝社 3. 講師の選ぶ最近のニュース記事 オンラインの文法サイトを紹介する予定です。</p>
-----------------------	--

学 び の 実 践	<p>学びの手立て</p>
-----------------------	---------------

学 び の 実 践	<p>評価</p> <p>中間テスト30%、期末テスト30%、出席・授業参加40%</p>
-----------------------	---

学 び の 実 践	<p>次のステージ・関連科目</p>
-----------------------	--------------------

学 び の 実 践	<p>次のステージ・関連科目</p>
-----------------------	--------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	English Grammar II	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-糸数 淳子	2年		

学 び の 準 備	ねらい English Grammar I で学んだ英文法の基礎に、重要な文法項目を追加導入し、練習問題を通して定着を図ります。	メッセージ
	到達目標	

学 び の 実 践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>講義では文法項目に関する論点の説明があり、理解を確認するために練習問題を解くという作業を主に行います。又、理解を深める目的で定期的な課題やクイズを予定しております。</p>
-----------------------	--

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>ハンドアウト</p> <p>授業の中で紹介します。</p>
-----------------------	--

学 び の 実 践	<p>学びの手立て</p>
-----------------------	---------------

学 び の 実 践	<p>評価</p> <p>ミニテスト、期末テスト、提出物内容を主として評価。 又、指名時の受け答え、授業への貢献度、出席率等も評価の対象となります。</p>
-----------------------	--

学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>
-----------------------	--------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Grammar II	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	2年		

学びの準備	ねらい 英文法の基礎である「5文型」及び「句と節」を学ぶ。同時に、辞書の詳しい使い方を学ぶ。すなわち、複雑な英文でも、文構造を理解し、正しい辞書の使い方を理解することにより、どのような英文でも意味がわかるようになることが本講義の目的である。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 指名による質問、問題の解答などを中心に講義を進めるが、重要なことは、「自分自身で文の構造を説明することができる」ことである。そのため、質問には「説明できるレベルまで理解していること」を示すように解答すること。
	テキスト・参考文献・資料など プリント教材を使用する。 特になし。
	学びの手立て
	評価 中間試験：33%、期末試験：33%、個人指名による質問への解答など：33%

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Grammar II	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲里 和花	2年		

学びの準備	ねらい 目的：既習の基本的な文法事項を復習・再確認させ、練習問題等を通して、コミュニケーションの活用につなげる。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. テキストは100unitで構成されている。各Unitを各学生に割り当て、割り当てられたunitの文法事項について各学生はプレゼンテーションを行う。テキストをそのまま説明してもよいし、その他の参考書を使って説明してもよい。 2. 授業では、文法の練習問題Practiceを全員で解答していく。各学生は、自宅で前もって、Practiceを解いてくること。 3. 講師が作成する練習問題を各自、解いて、全員で解答する。																				
	テキスト・参考文献・資料など PRACTICAL GRAMMAR Level 3 by John Hughes and Ceri Jones (HEINLE Cengage Learning) 『総合英語』be update 鈴木希明 編著 (いいずな書店)																				
	学びの手立て																				
	評価 <table border="0"> <tr> <td>授業態度</td> <td>20%</td> <td>優</td> <td>80点以上</td> </tr> <tr> <td>練習問題</td> <td>15%</td> <td>良</td> <td>70点以上80点未満</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>15%</td> <td>可</td> <td>60点以上70点未満</td> </tr> <tr> <td>中間・期末試験</td> <td>50%</td> <td>不可</td> <td>60点未満</td> </tr> <tr> <td></td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		授業態度	20%	優	80点以上	練習問題	15%	良	70点以上80点未満	プレゼンテーション	15%	可	60点以上70点未満	中間・期末試験	50%	不可	60点未満		100%	
授業態度	20%	優	80点以上																		
練習問題	15%	良	70点以上80点未満																		
プレゼンテーション	15%	可	60点以上70点未満																		
中間・期末試験	50%	不可	60点未満																		
	100%																				

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English for Special Purposes	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-東恩納 ミシェル	2年		

学びの準備	ねらい Description: This course is designed to help students gain skills in self-expression in English. Students will learn the language of discussion and debate, gain presentation skills, and develop critical thinking skills. Timely topics will be discussed related to personal and social issues. These will include such topics as: life goals, ethics, friendship,	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction to language of discussion	
	2	Introduction to language of discussion	
	3	topic selection	
	4	topic 1	
	5	topic 2	
	6	topic 3	
	7	speech preparation	
	8	speech presentations	
	9	topic 4	
	10	topic 5	
	11	topic 6	
	12	debate preparation	
	13	debate presentations	
	14	topic 7	
	15	group discussions preparation	
	16	group discussions presentations	
	テキスト・参考文献・資料など Impact Issues 2 - 20 relevant issues for discussion in English Pearson Longman ISBN 978-962-01-9931-8 1. Randall's Cyber Listening Lab http://www.esl-lab.com/ 2. ELLLO http://www.elllo.org/english/home.htm 3. VOA http://www.voanews.com/english/news/ 4. National Geographic http://www.nationalgeographic.com/		
	学びの手立て		
	評価 1. A Persuasive Speech 20%, 2. A Debate 20% 3. A group discussion 20%, 4. Daily attendance and participation 30% Listening homework 10% If you are absent 10 times you cannot pass this course and will have to repeat it. Being late to class three times equals one absence.		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English for Special Purposes	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ペビンソン サイモン	2年		

学びの準備	ねらい In this course the students will begin to develop their ability to discuss and debate topics of social importance in English.	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント	
	授業計画	時間外学習の内容
回	テーマ	
1	Part-time jobs - hot seat activity	
2	Part-time jobs - mind map	
3	Part-time jobs - research share	
4	Part-time jobs - video	
5	Part-time jobs - agree and disagree	
6	Part-time jobs - group then whole class	
7	Car parking - hot seat activity	
8	Car parking - mind map	
9	Car parking - research share	
10	Car parking - video	
11	Car parking - agree and disagree lists	
12	Car parking - group then whole class	
13	Learning English - hot seat activity	
14	Learning English - mind map	
15	Learning English - research share	
16	Learning English - video	
17	Learning English - agree and disagree	
18	Learning English - group then whole	
19	Smoking - hot seat activity	
20	Smoking - mind map	
21	Smoking - research share	
22	Smoking - video	
23	Smoking - agree and disagree lists	
24	Smoking - group then whole class debate	
25	Exam Preparation 1 - deciding topic,	
26	Exam Preparation 2 - preparing arguments	
27	Exam Preparation 3 - paired practice	
28	Exam 1 (written)	
29	Exam 2 (speaking)	
30	Exam feedback, extra topic hot seat	
31	Extra topic agree/disagree, debate	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など No textbook is prescribed for this course.</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価 Evaluation is by continuous assessment based on course work, participation and attendance, and a final exam in which the students will have a ten-minute debate with the teacher.</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Writing I	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 實	1年		

学びの準備	ねらい 本講では、基本的な文法事項をおさえながら、その知識を応用して、英語による作文の練習をする。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>テキストに沿って、毎回一章ずつ進み、月に一度のペースで確認小テストを行う。テキスト内で扱う項目は次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「～すべきだ」の表現 2. 「言うまでもなく」などの不定詞の慣用表現 3. 「思う」のさまざまな表現 4. 「とても～なので」の表現 5. 「できるだけ～する」の表現 6. 関係代名詞の使い方 7. It is～to～ の使い方 8. 「～はどうですか」の表現 9. 分数や倍数の表現 10. 動名詞の使い方 11. 付加疑問の表現 12. 倒置 13. 比較構文 14. 比較級と最上級 15. 不定詞の用法 <p style="padding-left: 100px;">その他</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『英文法解説』江川泰一郎著、金子書房</p>

学びの実践	
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p>
-------	---------------

学びの実践	<p>評価</p> <p>課題の提出状況と内容、小テスト、学期末テストの結果で評価する。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p>
-------	--------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Writing II	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	デビッド レイフィールド	2年		

学びの準備	ねらい Better use English for communication. Speak and understand English more easily and with confidence. Be able to talk about yourself and your opinions in English. Pronounce English more naturally. Speak English in front of your classmates with fluency and confidence.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Week 1: 7 April. Introductions, Textbook Unit 0.	
	2	Week 2: 11 & 14 April, Unit 1 'Have you two met?'	
	3	Week 3: 18 & 21 April, Unit 2 'You must be excited'	
	4	Week 4: 9 & 12 May, Unit 3 'Going Places'	
	5	Week 5: 16 & 19 May, Unit 4 'I love that!'	
	6	Week 6: 23 & 26 May, Unit 5 'Why?'	
	7	Week 7: 30 May & 2 June, Unit 6 'What's it like there?'	
	8	Week 8: 6 & 9 June, Review Unit 1	
9	Week 9: 13 & 16 June, Unit 7 'Do you remember when...?'		
10	Week 10: 20 & 23 June, Unit 8 'Making Plans'		
11	Week 11: 27 & 30 June, Unit 9 'What should I do?'		
12	Week 12: 4 & 7 July, Unit 10 'Tell me a story'		
13	Week 13: 11 & 14 July, Unit 11 'In my opinion'		
14	Week 14: 18 & 21 July, Unit 12 'Looking Ahead'		
15	Exam Week 25-29 July.		
16	Make Up Classes in August.		
	テキスト・参考文献・資料など Chuck Sandy et.al English Firsthand New Gold Edition 2, Longman 2009		
	学びの手立て		
	評価 Mid Term Test in Week 8 A final Exam. Both tests will be oral and written.		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Writing II	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-ケイト オカラハン	2年		

学びの準備	ねらい Students will study the mechanics of writing in English. Strengthening and building upon their current level, students will be taught different styles of writing through a wide variety of interesting and thought provoking topics.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) The class will follow the contents of the assigned textbook.
	テキスト・参考文献・資料など Great Writing 2: Great Paragraphs. (third edition) Heinle, Cengage Learning. ISBN-13: 978-1-4240-510-7
	学びの手立て
	評価 75% of grades in this course shall be attained through continuous assessment. Students will be expected to turn in 6 final draft assignments. The remaining 25% will be based on attendance and participation.

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Writing II	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-グレイ クエン ビデオ	2年		

学びの準備	ねらい This course aims to elevate students' writing level. By this I mean two things in particular. I will attempt to aid willful participants in their development of both concise articulation and argumentation of their opinions and additionally challenge every last one of them to express themselves creatively. English is for fun. Let's play.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction: Nuts and Bolts	
	2	personal essay: rough draft	
	3	personal essay: edit and revision	
	4	personal essay: final draft	
	5	review	
	6	persuasive essay: preparation	
	7	persuasive essay: rough draft	
	8	persuasive essay: edit and revision	
9	persuasive essay: final draft		
10	review		
11	fiction: character (draft)		
12	fiction: setting (draft)		
13	fiction: plot (draft)		
14	fiction: edit and revision		
15	fiction: final draft		
16	hugs and giggles		
	テキスト・参考文献・資料など Words In Motion by David Olsher; Oxford University Press N/A		
	学びの手立て		
	評価 you will be judged on your performance and your effort. (smiles don't hurt)		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Reading I	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	1年		

学びの準備	ねらい 精読と多読を通して語彙力と読解力の強化を図ります。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 授業前半は指定教科書の精読、後半は多読を行います。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で連絡します。
-------	-------------------------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 授業態度（出席率、積極性、発言）、クイズ、提出物を総合的に評価します。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Reading I	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 實	1年		

学びの準備	ねらい 音読・速読の練習をする。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 毎回前半は音読の練習、後半は速読の練習をする。
	テキスト・参考文献・資料など プリント教材を準備する。 その都度紹介する。

学びの実践	学びの手立て
	評価 毎回音読をしてもらい評価するとともに速読のテストで評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Reading I	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	松田 節子	1年		

学びの準備	ねらい この授業では精読と概要把握のふたつの読み方を身につけることを大きな目標とする。題材は時事英語、比較文化、名スピーチ、沖縄の社会文化など幅広い分野のものを扱う予定である。授業では文法、表現、背景的知識などを詳しく見ながら正確な内容理解に努めるとともに、それぞれの題材について自分なりに考え、英語で意見、疑問、感想などを述べる練習をする。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 授業開始時にシラバスを配布する。
	テキスト・参考文献・資料など 選定中 適宜配布する。
	学びの手立て
	評価 出席、課題・提出物、授業態度、授業への貢献度、テストの結果など総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Reading II	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	1年		

学びの準備	ねらい 前期に引き続き多読・速読により語彙力、読解力を強化を図ります。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 授業前半は、語彙力問題と様々なトピックの精読をペア・グループ単位で行い、授業後半は前期に引き続き個々のペースで多読を行います。
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で連絡します。

学びの実践	
-------	--

学びの実践	学びの手立て 評価 出席状況、クイズ、提出物（リーディングログ）を総合的に評価します。
-------	---

学びの実践	
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Reading II	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 實	1年		

学びの準備	ねらい 音読・速読の練習をする。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 授業の前半は音読の練習、後半は速読の練習をする。
	テキスト・参考文献・資料など プリント教材を準備する。 その都度紹介する。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など プリント教材を準備する。 その都度紹介する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 毎回の音読発表で評価するとともに2回の速読のテストをする。
-------	-------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Reading II	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	松田 節子	1年		

学びの準備	ねらい この授業では前期のEnglish Reading Iに引き続き、精読と内容把握のふたつの読み方をさらに磨くとともに、多読にも挑戦する。題材は、比較文化、英米の言語文化、沖縄の社会文化など、幅広いものを扱う予定である。授業では文法、表現、背景的知識などにも目を向けながら、それぞれの題材について、要点、意見、疑問、感想などを英語で述べる練習をする。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 授業開始時にシラバスを配布する。
	テキスト・参考文献・資料など 授業開始時に指示する。 適宜配布する。
	学びの手立て
	評価 出席、宿題、授業態度、授業への貢献度、テストの結果などから総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	インターネット英語	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	3年		

学びの準備	ねらい My main aim is to challenge students to become actively involved in the English world of the Internet. Students will be expected to take the initiative in writing blogs, creating their own pages, listening to podcasts, chatting with others, posting on bulletin boards, and choosing their own creative ways to be involved on the Internet.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	Introduction to class, opening new e-mail accounts, setting up group pages, etc.
	2	Setting up one's own webpage, making contacts
	3	Social networking (Facebook / MySpace)
	4	Reading and writing blogs (Blogster.com, etc.)
	5	Posting on bulletin boards
	6	On-line chat (OIU VIVA site, etc.)
	7	StoryCorps (Listening to stories)
	8	Listening to and participating in podcasts
	9	Listening to and participating in podcasts
	10	Watching English videos (YouTube)
	11	Watching English videos (YouTube)
	12	On-line English Tests (TOEIC, TOEFL, etc.)
	13	On-line English Tests (TOEIC, TOEFL, etc.)
	14	Quizlet, Rikai.com, and other sites for studying English
15	On-line vocabulary study and English games	
16	English study through song lyrics	
	テキスト・参考文献・資料など No textbook is required for this class. However, students are encouraged to bring an electronic dictionary to every class. The address for our group page is as follows: http://groups.yahoo.com/group/OIUInternetEnglish/	
	学びの手立て	
	評価 On-line folders will be evaluated three times during the semester, and the three grades will be averaged together to calculate the final grade. Students are expected to submit a 100-word absence report for each class missed, but still must attend more than 75% of all classes. Students are reminded to save a copy of everything that they post to the "My Posts" folder in their yahoo.com mail account page.	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語音声学	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	3年		

学びの準備	ねらい This course combines theory and practice in articulatory phonetics with a focus on the basic concepts of English speech sounds.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction	
	2	The Vocal Organs; Sound Classes	
	3	Consonants: Places of Articulation	
	4	Consonants: Manners of Articulation	
	5	Vowels: Articulation & Classification	
	6	The Transcription of English Vowels & Consonants	
	7	Consonant & Vowel Charts; Midterm Exam	
	8	The Syllable	
	9	Accent	
	10	Rhythm	
	11	Coarticulation & Other Phonological Processes	
	12	Intonation (1)	
	13	Intonation (2)	
	14	World Englishes (1)	
15	World Englishes (2)		
16	Final Exam		
テキスト・参考文献・資料など To be announced in class.			
学びの手立て			
評価 Attendance, Class Participation & Homework (50%). Mid-term & Final Exams (50%).			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語学概論	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 實	2年		

学びの準備	ねらい 英語学概論とは、アメリカ人やイギリス人が乳幼児のころから習い覚える英語の言語習慣や規則の体系を音声、語彙、文、意味などの角度から総論的に勉強する学問分野です。英語を単なるコミュニケーションツールとしてではなく、そのしくみを科学的に分析し記述する方法論を学び、英語に対する言語学的理解を深めることを目指します。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1週 言語と言語学 第2週 英語と英語学 第3週～第4週 音韻論 第5週～第7週 形態論 第8週 中間試験 第9週～第11週 統語論 第12週 第13週 意味論 第14週 語用論 第15週 英語の歴史 第16週 期末試験
	テキスト・参考文献・資料など プリント教材などを準備 参考図書もそのつど紹介します。
	学びの手立て
	評価 受講態度、宿題、中間・期末、出欠などを総合的に勘案し評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語学特殊講義	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	柴崎 礼士郎	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では社会言語学を立脚点とし、ことばの日常的使用に注目する。多言語社会、ダイグロシア、言語の死、ジェンダーと言語、ポライトネス、etc. を取り上げる予定である。また、近年の言語人類学の知見も取り入れる可能性もあり、特殊講義らしい多様な内容になるように現在準備中である。シラバス執筆時（2012年1月）から開講時（2012年9月）までの間に、興味深いテーマが見つければ随時</p>	
到達目標		

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>開講時まで塾考するためTBA。尚、参加者数に応じて授業形式を柔軟に変えることもある。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>現在選定中につきTBA。開講時に指示します。尚、図書館の「指定図書」も随時参考にして下さい。</p> <p>東 照二 2009『社会言語学入門<改訂版> 生きた言葉のおもしろさに迫る』東京：研究社 ¥2,450.</p> <p>原 聖（編）2010『言語的多様性という視座（ことばと社会）』東京：三元社. ¥2,415.</p> <p>リチャード・E・ニスベット 2004『木を見る西洋人 森を見る東洋人』ダイヤモンド社. ¥2,100（税別）</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>①出席率 ②課題 ③発表 ④授業態度</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語教育学	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	2年		

学びの準備	ねらい 本講義は、3年次履修の英語科教育法Ⅰの introduction になります(従って、英教法履修予定者は“原則”受講することが望ましいです)。英語科教育の現状を overview し、問題点を把握します。そして、今後目指すべき英語科教育の方向性を明らかにします。講義の前半45分は指定 group が略式 presentation を行います。「わかる」段階に留まらず、「使える・説明できる」段階を模索し	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で連絡します。 講義内で別途配布または連絡します。
	学びの手立て
	評価 ① 授業出席度 (原則皆勤) ② presentation (group 毎) ③ 個人・相互評価 ④ 質疑応答 ⑤ 課題 ⑥ 受講姿勢

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語教育教材研究	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	3年		

学びの準備	ねらい 本講義は、英教法Ⅰの実践編及び英教法Ⅱの補足編になります。従って、英教法履修者は、“原則”履修することが望ましいです。文部科学省検定中学・高校教科書を取り上げ、抽出した各 section / lesson の題材を分析し、理想的な教材を作成します。flash/picture cards の作り方, target sentences の導入・理解・運用を目指す各種活動, 復習・定着・まとめの ideas, 黒板・教室の使い方	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で連絡します。 講義内で別途配布または連絡します。
	学びの手立て
	評価 ① 授業出席度 (原則皆勤) ② presentation ③ 個人・相互評価 ④ 質疑応答 ⑤ 課題 ⑥ 受講姿勢 ⑦ 教材作成

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語圏社会文化特殊講義	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ピーター シンプソン	3年		

学びの準備	ねらい This class is intended to give students an opportunity to explore and question issues relating to society and culture in parts of the world outside Britain and the United States where the English language serves some function.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>In collaboration with the teacher, students will be expected to produce a bilingual group project and a final individual report (in English) focusing on an area of their choice.</p> <p>A number of themes will be proposed, but these are highly negotiable.</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>No textbook is required for this class. Instead, students will be expected to find information from a variety of sources.</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>Assessment will be based on the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> * assignments relating to course content * attendance and participation

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-真島 知秀	1年		

学びの準備	ねらい 本講義は、資料収集、まとめ、発表などに必要なパソコン操作の基本技能を習得することを目的に、Word 2007, Excel 2007, PowerPoint 2007を使って実践的な演習を行います。また課題をこなす中で英文のブラインドタッチのマスターおよび入力速度の向上も図ります。その他パソコンを使った総合的な演習を通じて、学生生活で必要な情報処理技術を身に付けます。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	大学メールおよびシステムの活用	
	3	コンピュータの基礎：文字入力	
	4	コンピュータの基礎：フォルダ・ファイル	
	5	ネットワーク利用：インターネット利用	
	6	ネットワーク利用：インターネット上のファイルやソフトの利用	
	7	ネットワーク利用：メールの利用	
	8	ネットワーク利用：情報モラル	
9	Word 2007：基本操作		
10	Word 2007：書式設定基礎		
11	Word 2007：書式設定応用		
12	Word 2007：表・図・写真の追加(1)		
13	Word 2007：表・図・写真の追加(2)		
14	Word 2007：演習		
15	Word 2007：演習		
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 矢野文彦監修「情報リテラシー教科書 -インターネット・Word・Excel・PowerPoint-」オーム社開発部		
	学びの手立て		
	評価 ・評価は毎時の課題提出と期末試験と出席が主な対象となります。 ・一週間に1回しか授業がないので（全15回の授業）必ず全ての授業を受けてください。5回以上休んだ時点で期末試験の受験資格を失います。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ダグラス トライスタット	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>This is an introductory course in information processing for English majors. The language of instruction in this course is primarily English, and secondarily Japanese. Wherever possible, English language versions of software are used. In this course we will be introduced to computer spreadsheets, presentation techniques using PC software, databases, and word</p>	
到達目標		

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>This course provides English major students with the fundamentals of:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) computer hardware 2) operating systems and user interfaces 3) file systems 4) networking 5) eMail and social networking 6) computer graphics 7) eLearning fundamentals 8) deep Internet searching and data mining
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>大串夏身、文科系学生のインターネット検索術、青弓社、2001年 Any good paper or electronic English-Japanese / Japanese-English dictionary.</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>Mid-term exam: 40% Final report: 60%</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	真喜志 満	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講座は、キーボード練習によるブラインドタッチをマスターすることから始め、最終的には外資系企業など国際的環境の職場で実際に作成する英文書類を作成する能力を身につけることを目的とする。進め方は、実際の書類を教材に演習を行っていく。使用ソフトはMicrosoft WordやPowerPointが中心である。演習にあたっては、常に10本の指をフルに使ったブラインドタッチの基本を忘れないよう</p>	
到達目標		

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <table border="0"> <tr><td>1週目</td><td>講義内容の説明、導入</td></tr> <tr><td>2週目</td><td>ブラインドタッチ演習・初級～中級</td></tr> <tr><td>3週目</td><td>ブラインドタッチ演習・上級</td></tr> <tr><td>4週目</td><td>入力速度測定</td></tr> <tr><td>5週目</td><td>段組のある雑誌記事での入力演習</td></tr> <tr><td>6週目</td><td>学級プロジェクトその1 <パワーポイント使用></td></tr> <tr><td>7週目</td><td>学級プロジェクトその2 <パワーポイント使用></td></tr> <tr><td>8週目</td><td>文書作成：ビジネスレター、英文履歴書</td></tr> <tr><td>9週目</td><td>実地的ビジネスレターの作成</td></tr> <tr><td>10週目</td><td>筆記体からのビジネスレターの作成</td></tr> <tr><td>11週目</td><td>メモ書きを基にした実地的書類作成</td></tr> <tr><td>12週目</td><td>和文英訳をしながらのレター作成</td></tr> <tr><td>13週目</td><td>ワード機能をフルに使った演習</td></tr> <tr><td>14週目</td><td>英文履歴書等の課題の仕上げ・印刷</td></tr> <tr><td>15週目</td><td>期末試験</td></tr> <tr><td>16週目</td><td>提出物・成績最終確認</td></tr> </table>	1週目	講義内容の説明、導入	2週目	ブラインドタッチ演習・初級～中級	3週目	ブラインドタッチ演習・上級	4週目	入力速度測定	5週目	段組のある雑誌記事での入力演習	6週目	学級プロジェクトその1 <パワーポイント使用>	7週目	学級プロジェクトその2 <パワーポイント使用>	8週目	文書作成：ビジネスレター、英文履歴書	9週目	実地的ビジネスレターの作成	10週目	筆記体からのビジネスレターの作成	11週目	メモ書きを基にした実地的書類作成	12週目	和文英訳をしながらのレター作成	13週目	ワード機能をフルに使った演習	14週目	英文履歴書等の課題の仕上げ・印刷	15週目	期末試験	16週目	提出物・成績最終確認
	1週目	講義内容の説明、導入																															
	2週目	ブラインドタッチ演習・初級～中級																															
	3週目	ブラインドタッチ演習・上級																															
4週目	入力速度測定																																
5週目	段組のある雑誌記事での入力演習																																
6週目	学級プロジェクトその1 <パワーポイント使用>																																
7週目	学級プロジェクトその2 <パワーポイント使用>																																
8週目	文書作成：ビジネスレター、英文履歴書																																
9週目	実地的ビジネスレターの作成																																
10週目	筆記体からのビジネスレターの作成																																
11週目	メモ書きを基にした実地的書類作成																																
12週目	和文英訳をしながらのレター作成																																
13週目	ワード機能をフルに使った演習																																
14週目	英文履歴書等の課題の仕上げ・印刷																																
15週目	期末試験																																
16週目	提出物・成績最終確認																																
テキスト・参考文献・資料など	使用せず。毎回練習用プリントを配布し、説明の後演習を行う。																																
学びの手立て																																	
評価	出席30%、入力速度測定10%、作成文書や宿題等の提出物50%、期末試験10%、その他+/-5%の配分で評価する。その他とは、授業への貢献度や態度などを含む。演習を中心の授業なので、評価の配分は試験より実践のほうがはるかに高い。学生には、とにかく毎回出席して、与えられた課題をこなし提出することが望まれる。																																

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-真島 知秀	1年		

学びの準備	ねらい 本講義は、前期の英語情報処理Ⅰで学んだパソコンの基本操作から発展させ、資料収集、まとめ、発表などに必要な関連ソフトの習得を目指します。またインターネットを活用した各種ツールを紹介しながら、より実践的な演習を行います。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	Excel：基本操作	
	3	Excel：関数の利用	
	4	Excel：見やすい表の作成	
	5	Excel：グラフの利用	
	6	Excel：少し高度な関数	
	7	Excel：データベース	
	8	Excel：知っていると便利な機能	
	9	Excel：総合演習	
	10	PowerPoint：プレゼンテーション	
	11	PowerPoint：スライド作成	
	12	PowerPoint：スライドの組み立て	
	13	PowerPoint：スライドの仕上げ	
	14	PowerPoint：スライド提示	
	15	PowerPoint：総合演習	
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 矢野文彦監修「情報リテラシー教科書 -インターネット・Word・Excel・PowerPoint-」オーム社開発部		
	学びの手立て		
	評価 ・評価は毎時の課題提出と期末試験と出席が主な対象となります。 ・一週間に1回しか授業がないので（全15回の授業）必ず全ての授業を受けてください。5回以上休んだ時点で期末試験の受験資格を失います。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ダグラス トライスタット	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>This is an introductory course in information processing for English majors. The language of instruction in this course is primarily English, and secondarily Japanese. In this course we will be introduced to computer spreadsheets, database management software, presentations techniques using presentation software, and word processing for both business and aca</p>	
到達目標		

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>This course provides English major students with the fundamentals of:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) spreadsheet software 2) database management software 3) presentations techniques using presentation software 4) word processing for business 5) word processing for academic purposes
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>Maran, Ruth. Office 2007 Simplified Any good paper or electronic English-Japanese / Japanese-English dictionary.</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) a spreadsheet file - 5% 2) a database file - 10% 3) one presentation using Powerpoint - 40% 4) one academic report using Word - 40% <p>There will also be one quiz on netiquette, copyright infringement, and privacy. - 5%</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	真喜志 満	1年		

学びの準備	ねらい 本講座の主な目的は、外資系企業など国際的環境の職場で実際に作成する書類を英語で作成する能力を身につける為のコースである。進め方としては、実際の英文書類を教材として、作表やグラフ作成などの演習を行っていく。インターネットも活用するが、使用ソフトはMicrosoft Excelが中心である。演習にあたっては、単にワープロ感覚で作表するのではなく、様々なデータ処理機能を活用しな	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1週目 講義内容の説明、導入 2週目 アドレス帳の作成 3週目 単語帳の作成とインターネットの活用 4週目 日程表の作成 5週目 作表：Company's Report Their Earnings + Monthly Income 6週目 作表：Nikkei 225 Futures 7週目 作表+グラフ作成：Statistics on Japanese Population + 人生カレンダー 8週目 作表+グラフ作成：Expenditure Analysis 9週目 複雑な体裁を整える演習：Voice Messaging Matrix 10週目 作表：Import Calculation <前編> 11週目 作表：Import Calculation <後編> 12週目 作表：成績表<前編> 13週目 作表：成績表<後編> 14週目 特別講義：試験の傾向と対策 + 成績シミュレーション + 授業評価アンケート 15週目 期末試験 16週目 特別講義：提出物・成績最終確認・追加作業
	テキスト・参考文献・資料など 使用せず。毎回練習用プリントを配布し、説明の後演習を行う。 図書館所蔵の各種Microsoft Office マニュアル本
	学びの手立て
	評価 出席35%、提出物35%、宿題15%、期末試験15%、その他+/-5%の配分で評価する。その他とは、授業への貢献度や態度などを含む。実践的演習を中心に行う授業なので、評価の配分は試験よりも日頃の実践のほうが高い。また、提出期限を過ぎてからの提出物については、一日の遅れにつき1.5ポイントの減点となる。従って、課題を貯めて、期末に提出しても意味がない。とにかく学生は毎回出席して、授業に集中し、与えられた課題をこなして期限内に提出することが望まれる。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理Ⅲ	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ダグラス トライスタット	2年		

学びの準備	ねらい この授業では大学で必要な情報処理の基礎知識と技能を身につける。情報アーキテクチャと情報組織化を基礎としたウェブサイト構築する方法を学習し、イントラネットやインターネットでユーザに情報を提供する為に必要な知識と技術を習得する。授業でウェブサイトを実際に開発しながら情報処理術を学ぶ。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ウェブサイトのしくみ 2. 情報アーキテクチャの概要 1 3. 情報アーキテクチャの概要 2 4. 情報の組織化 5. ナビゲーションの設計 6. ラベリングシステム 7. イラストレーションソフト入門 8. 画像処理ソフト入門 1 9. 画像処理ソフト入門 2 10. HTML入門 1: Basic Tags 11. HTML入門 2: Images 12. HTML入門 3: Tables 13. HTML入門 4: Links 14. HTML入門 5: Lists 15. HTML入門 6: Page Layout
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>Rosenfeld and Morville共著, 篠原稔和 監訳, 情報アーキテクチャ入門, 1998, オライリー・ジャパン. * HTMLタグ辞典 * Steve Krug, ウェブサイトユーザビリティの法則, 2001, SoftBank Publishing. * Jesse James Garrett, The Elements of User Experience, New Riders, 2003.</p>

学びの実践	
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p>
-------	---------------

学びの実践	<p>評価</p> <p>テスト 20% 課題: Web page project - 80%</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p>
-------	--------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理IV	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ダグラス トライスタット	2年		

学びの準備	ねらい この授業では大学で必要な情報処理の基礎知識と技能を身につける。情報アーキテクチャと情報組織化を基礎としたウェブサイト構築する方法を学習し、イントラネットやインターネットでユーザに情報を提供する為に必要な知識と技術を習得する。授業でウェブサイトを実際に開発しながら情報処理術を学ぶ。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 1. 検索システムとウェブサイト 2. ユーザの調査 3. 概念によるデザイン 4. 制作と作業工程 5. アーキテクチャの事例研究 6. 高度なHTMLテクニック 7. イラストレーション作成と画像処理テクニック 8. Flashアニメーションテクニック 9. Javascript入門 10. データベース入門 li 11. > CFML入門 12. ウェブページ作成テクニック 1 13. ウェブページ作成テクニック 2 14. ウェブページ作成テクニック 3 15. ウェブページ作成テクニック 4
	テキスト・参考文献・資料など ・J.M. スプール、et. al.、Webサイトユーザビリティ入門、2002、東京電機大学出版局。 ・ヤコブ・ニールセン、ユーザビリティエンジニアリング原論、2002、東京電機大学出版局。 ・Rosenfeld and Morville共著、篠原稔和 監訳、情報アーキテクチャ入門、1998、オライリー・ジャパン。 ・Jesse James Garrett, The Elements of User Experience, New Riders, 2003. ・Steve Krug, ウェブサイトユーザビリティの法則、2001、SoftBank Publishing.
	学びの手立て
	評価 Student will be evaluated on their contributions to a group website construction project. The project will be evaluated on: 1) content - 20%, 2) graphic design - 20%, 3) usability, ease of navigation - 20%, 4) information architecture - 20%, 5) interactivity - 20%

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米演劇概論	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-城間 幹夫	3年		

学びの準備	ねらい 本講では、英米の演劇史の流れを概観しながら、代表的な作品をいくつか取り上げる。具体的な作品読解を通して、物語の舞台となっている時代の社会、生活、文化について理解を深め、作品それぞれの魅力を味わう。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 週目 講義内容の説明 2 週目 イギリス中世演劇 3～5 週目 シェイクスピアと大衆演劇 6～7 週目 サヴォイ・オペラ 8～10 週目 風習喜劇：Oscar Wilde の作品読解 11 週目 アメリカ大衆演劇 12～14 週目 アメリカ家庭演劇：Tennessee Williams の作品読解 15 週目 現代演劇
	テキスト・参考文献・資料など プリントを配布する。 講義のなかで適宜紹介する。
	学びの手立て
	評価 学期末試験 60%、授業への貢献度 40%

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米詩概論	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石川 隆士	3年		

学びの準備	ねらい 本講では、いかに詩が身近なものであるかを実感してもらい、世界理解と自己表現のための生きたスキルとして身に付けてもらうことを目的とする。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction	
	2	History of Poetry I	
	3	History of Poetry II	
	4	Poety Case Study I	
	5	Poety Case Study II	
	6	Poety Case Study III	
	7	Wrap-up I	
	8	Review of Term Paper I	
	9	Presentation & Discussion I	
	10	Presentation & Discussion II	
	11	Presentation & Discussion III	
	12	Presentation & Discussion IV	
	13	Presentation & Discussion V	
	14	Presentation & Discussion VI	
	15	Wrap-up II	
	16	Review of Term Paper II	
	テキスト・参考文献・資料など Handout 講義中に適宜紹介する		
	学びの手立て		
	評価 Quiz 20% Presentnation&Discussion 50% Term Papers 30%(15×2)		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米小説概論	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-吉田 兼次	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など

学びの実践	学びの手立て

学びの実践	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米文学概論	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	2年		

学びの準備	ねらい 英語で書かれた文学作品の鑑賞を通して、英米の文学、文化、社会、歴史に関する基礎的な知識を身につけるとともに、実際の作品に触れることにより、「文学とは何か」を考えることを目標とする。今年度は、小説やエッセイなどの講読を通して、「アメリカ黒人文学」という「特殊」なテーマを取り上げ、考察する。また、現代沖縄文学の作品も適宜取り入れ、アメリカ黒人文学との共通点を探る	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 毎週、作品のあらすじやテーマなどを中心に、グループ発表とディスカッションにより授業を進める。予め指名されたグループは、作品のあらすじ、テーマ、議論すべき問題点などをまとめた「発表報告書」を作成し、全員に配布すること。グループの発表を基にして、全員が作品について議論を行う。作品は、全員必ず読んでおくこと。
	テキスト・参考文献・資料など 主にプリント教材を用いる。 『アメリカ黒人の歴史』 本田創造（岩波新書）、その他、適宜紹介する。
	学びの手立て
	評価 中間試験：33%、期末試験：33%、グループ発表・発言など34%

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米文学特論	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山本 伸（世話役：追立 祐嗣）	2年		

学びの準備	ねらい 英米文学を非英米の視点（カリブ海地域、他）から眺めた時に見える現代世界の構造的本質について、観念的、文学的アプローチと歴史的、文化人類学的アプローチを統合することで立体化した総括的概念としてとらえることを第一義とする。第二義的には、視点をさらに日本そして沖縄に絞り込んでいくことで現代世界と自己の関係性について主観的、客観的に考える。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>1回：導入（授業の概要および担当者について／現代カリブ文学概観）</p> <p>2回：歴史と教育</p> <p>3回：歴史と教育 from Okinawan Perspective</p> <p>4回：社会・人種・アイデンティティ</p> <p>5回：社会・人種・アイデンティティ from OP</p> <p>6回：文化とコミュニティ</p> <p>7回：文化とコミュニティ from OP</p> <p>8回：文化と宗教</p> <p>9回：文化と宗教 from OP</p> <p>10回：クレオリズムとグローカリズム</p> <p>11回：クレオリズムとグローカリズム from OP</p> <p>12回：平和</p> <p>13回：平和 from OP</p> <p>14回：カリブ文学研究の現代的意義／まとめ</p> <p>15回：質疑応答／意見交換</p> <p>16回：試験</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『カリブ文学研究入門』（世界思想社）</p> <p>『世界の黒人文学』（鷹書房弓プレス）</p> <p>『二〇世紀アメリカ文学を学ぶ人のために』（世界思想社）</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>出席50% 提出物25% 試験25%</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ジョナサン ハッチャー	1年		

学びの準備	ねらい This is an oral English course, so the emphasis will be on speaking and listening skills. There will also be some work on presentation skills. The main aim is, by the end of the course, for students to be able to communicate in English more fluently and naturally. Students will also feel more confident speaking English in front of others, as well as gaining	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction	
	2	Ice-Breaking Activities	
	3	Ice-Breaking Activities	
	4	Pronunciation Focus	
	5	Pronunciation Focus	
	6	Pronunciation Focus	
	7	Pronunciation Focus	
	8	Vocabulary-Building Activities	
	9	Vocabulary-Building Activities	
	10	Usage Activities	
	11	Usage Activities	
	12	Friends	
	13	Free Time	
	14	The Past	
	15	Mi-Term Test Preparation	
	16	Mid-Term Test	
	17	The Family	
	18	Work	
	19	City Life	
	20	Beliefs	
	21	The Future	
	22	Transportation	
	23	Vices	
	24	Marriage	
	25	Animals	
	26	Computers	
	27	The Generation Gap	
	28	Travel	
	29	Textbook Review	
30	Final Test Preparation		
31	Final Test		

学	テキスト・参考文献・資料など Communication Strategies 1 by David Paul (Cengage Learning)
び の 実 践	学びの手立て
	評価 75% In-class performance, attitude and improvement 15% Mid-term test 15% Final test
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	クレイグ K ジェロブソン	1年		

学びの準備	ねらい This course is designed to help first year students improve their English speaking and listening skills and their overall ability to communicate.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Course Registration and Introduction	
	2	Unit 1 & Listening Tests	
	3	Unit 2 & Listening Tests	
	4	Unit 3, Presentations & Listening Tests	
	5	Unit 4 & Listening Tests	
	6	Unit 5 & Listening Tests	
	7	Unit 6 & Listening Tests	
	8	Unit 7, Interviews & Listening Tests	
9	Unit 8 & Listening Tests		
10	Unit 9 & Listening Tests		
11	Unit 10, Presentations & Listening Tests		
12	Unit 11 & Listening Tests		
13	Unit 12 & Listening Tests		
14	Unit 13 & Listening Tests		
15	Unit 14, Presentations & Listening Tests		
16	Interview Tests		
	テキスト・参考文献・資料など Shimizu, P. & Gaston, B. Marathon Mouth Plus, Intercom Press (Available at Asano Bookstore)		
	学びの手立て		
	評価 Regular attendance is extremely important in this class. Students will be evaluated based on their attendance, class participation and a variety of listening exams. Students should note that there are no makeup exams for listening exams that they might miss. Missing one listening exam, however, will not have any impact on one's final grade.		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ヒーター シンプソン	1年		

学びの準備	ねらい In this course I aim to encourage students to become more confident speakers of English. In doing so I use a variety of low-stress activities, usually involving pair or group work, and co-operative (and hopefully fun) activities which require students to use the language they know.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など Marathon Mouth Plus. Paul Shimizu & Brent Gaston
	学びの手立て
	評価 This is likely to be based on attendance and participation, informal interviews, and homework assignments designed to prepare for or reinforce class activities.

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-ライト ヒレル アラン	1年		

学びの準備	ねらい The aim of this course will be for students to improve their ability to communicate in English. In order to maximize speaking time, students will do some of their work in pairs or small groups. I expect students to refrain from speaking in Japanese and to speak English as often as possible.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction to the course, self-introductions, whole group activity	
	2	Extemporaneous speeches (for evaluation purposes)	
	3	Listening exercise & Q & A	
	4	Reading story aloud & Listening comprehension exercise	
	5	Vocabulary exercises (Mon - everyday items) (Thur - foods)	
	6	Comparing Cultures (Western Horoscope) (Chinese Horoscope)	
	7	Role Play: Dating & Personality	
	8	Sports - Prepared speech (Mon) Q & A (Thur)	
9	Occupations - Film "Palookaville"		
10	Weather - Extemporaneous speech		
11	Travel (abroad) & (in Japan)		
12	Restaurants & Role playing activity		
13	Environment & Ecology		
14	Stereotypes (Ethnicity) & (Gender)		
15	Graded Conversations (pairs or small groups)		
16	Final Exam (Listening Comprehension)		
	テキスト・参考文献・資料など Marathon Mouth by David Kehe and Peggy Dustin Kehe. Pro Lingua Associates. ISBN 0-86647-189-8. In addition, students should bring a B5 notebook and an electronic dictionary to every class.		
	学びの手立て		
	評価 Students will be evaluated based on attendance, in-class participation, in-class speeches, homework, graded conversations & listening comprehension test.		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ロビンソン サイモン	1年		

学びの準備	ねらい This course is designed to improve students basic listening, speaking and communication skills.	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation, basic self-introductions -	
	2	Basic self-introductions - structured	
	3	Basic self-introductions - free speaking	
	4	Personal Information - introduction,	
	5	Personal Information - structured	
	6	Personal Information - free speaking	
	7	Can and Can't - introduction, listening	
	8	Can and Can't - structured speaking	
	9	Can and Can't - free speaking practice.	
	10	Time - listening, structured speaking	
	11	Daily Activities - intro, listening	
	12	Daily Activities - structured speaking	
	13	Daily Activities - free speaking	
	14	Rooms - introduction, listening	
	15	Rooms - structured speaking practice	
	16	Rooms - free speaking practice	
	17	Rooms - detailed speaking activity	
	18	Talking about the past - introduction,	
	19	Talking about the past - structured	
	20	Talking about the past - free speaking	
	21	Talking about the past - short present	
	22	Talking about the future - introduction,	
	23	Talking about the future - structured	
	24	Talking about the future - free speaki	
	25	Talking about the future - short pres	
	26	Exam preparation 1	
	27	Exam preparation 2	
	28	Exam preparation 3	
	29	Exam day 1 (written)	
30	Exam day 2 (speaking)		
31	Exam feedback and comments, final spe		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>Fifty Fifty Book One (Available in the campus bookstore)</p> <p>Students will be expected to download various listening materials from the CALL Lab.</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p>
学 び の 継 続	<p>評価</p> <p>Students will be evaluated based on attendance, effort in class, listening tests and speaking exam.</p>
	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication II	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ビーカー シンプル	1年		

学びの準備	ねらい This course is designed to improve students' speaking and listening skills as well as their overall ability to communicate effectively in English in real-life situations.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Course Registration and Introduction	
	2	Useful English	
	3	Self-Introductions	
	4	What Do You Do?	
	5	Day to Day	
	6	Where Are We?	
	7	Talking about Families	
	8	What Are You Interested In?	
9	Talking about the Past		
10	Looking at People		
11	This One? That One?		
12	I' ve Got a Feeling		
13	Let' s Go Shopping		
14	That' s Entertainment		
15	Dreams and Fantasies		
16	Interview Tests		
	テキスト・参考文献・資料など Thompson, P. & Chase, C. Natural Speaking, Intercom Press (Available at Asano Bookstore) An English-Japanese/Japanese- English dictionary (printed or electronic) is recommended. Teacher will provide further reference materials as needed.		
	学びの手立て		
	評価 Regular attendance and punctuality is extremely important in this class. Students will be evaluated on their attendance, class participation and a variety of listening and speaking exams. Students should note that there are no makeup examinations for listening or speaking exams. Missing one listening and one speaking exam will not have any impact on one' s final grade.		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication II	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	クレイグ K ジェロブソン	1年		

学びの準備	ねらい This course is designed to help students improve their speaking and listening skills and their overall ability to communicate.	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Course Registration and Introduction	
	2	Useful English	
	3	Introductions	
	4	What Do You Do?	
	5	Day to Day	
	6	Where Are We?	
	7	Talking about Families	
	8	What Are You Interested In?	
	9	Talking about the Past	
	10	Looking at People	
	11	This One? That One?	
	12	I've Got a Feeling	
	13	Let's Go Shopping	
	14	That's Entertainment	
	15	Dreams and Fantasies	
16	Interview Tests		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など Thompson, P. & Chase, C. Natural Speaking, Intercom Press (Available at Asano Bookstore)
-------	--

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 Regular attendance is extremely important in this class. Students will be evaluated based on their attendance, class participation and a variety of listening exams. Students should note that there are no makeup exams for listening exams that they might miss. Missing one listening exam, however, will not have any impact on one's final grade.
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication II	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	東恩納 ミシェル	1年		

学びの準備	ねらい The primary focus of this course is for students to increase their ability to converse and communicate in English. Listening, speaking, pronunciation and vocabulary acquisition will be addressed.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Useful English and Introductions	
	2	Occupations	
	3	Social Greetings, Schedule, Telling Time, Daily Routines	
	4	Prepositions of location and Directions	
	5	Talking About Families	
	6	Discussing Interests and Leisure Activities	
	7	Talking About the Past and Sports	
	8	Midterm Test Review and Exam	
	9	Describing People	
	10	Feelings and Emotions	
	11	Shopping, Containers and Food	
	12	Talking About Experiences	
	13	Entertainment, Free Time and Music	
	14	Medical Terms, Accidents, and Warnings	
	15	Personal Goals and Dreams	
	16	Final Test Review and Exam	
	テキスト・参考文献・資料など Natural Speaking by Paul Thompson & Christopher Chase. Intercom Press		
	学びの手立て		
	評価 1. Six brief dialog or other oral presentations 30% 2. Midterm test 30% 3. Final test 30% 4. 10 hours listening 10% If you are absent 10 times you cannot pass this course and will have to repeat it.		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication II	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ジョナサン ハッチャー	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>This is an oral English course, so the emphasis will be on speaking and listening skills. There will also be some work on presentation skills. The main aim is, by the end of the course, for students to be able to communicate in English more fluently and naturally. Students will also feel more confident speaking English in front of others, as well as gaining</p> <p>到達目標</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction	
	2	Ice-Breaking Activities	
	3	Ice-Breaking Activities	
	4	Pronunciation Activities	
	5	Pronunciation Activities	
	6	Pronunciation Activities	
	7	Pronunciation Activities	
	8	Vocabulary-Building Activities	
	9	Vocabulary-Building Activities	
	10	Usage Activities	
	11	Usage Activities	
	12	Friends	
	13	Free Time	
	14	The Past	
	15	Mid-term Test Preparation	
	16	Mid-term Test	
	17	The Family	
	18	Work	
	19	City Life	
	20	Beliefs	
	21	The Future	
	22	Transportation	
	23	Vices	
	24	Marriage	
	25	Animals	
	26	Computers	
	27	The Generation Gap	
	28	Travel	
	29	Textbook Review	
30	Final Test Preparation		
31	Final Test		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など Communication Strategies 1 by David Paul (Cengage Learning)</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価 75%: In-class performance, attitude and improvement 15%: Mid-term test 15%: Mid-term test</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication II	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	グレイ クエン ヒデオ	1年		

学びの準備	ねらい Our goal will be to become better, more confident english speakers.	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Intoduction: Nuts and Bolts	
	2	Unit 1	
	3	Unit 2	
	4	Unit 3	
	5	Unit 4	
	6	Unit 5	
	7	Unit 6	
	8	Unit 7	
	9	Unit 8	
	10	Unit 9	
	11	Unit 10	
	12	Unit 11	
	13	Unit 12	
	14	Unit 13	
	15	Unit 14	
16	Hugs and Kisses		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など Natural Speaking N/A
-------	---

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 Regular class attendance and ACTIVE participation will constitute to the majority of your grade. Additionally, your performance on bi-weekly quizzes and in-class presentations shall play a role.
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication III	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-東恩納 ミシェル	2年		

学びの準備	ねらい The course aims to empower students to engage in basic conversations, correctly use in context the basic tense system, modal verbs, and basic speech acts, ask and answer questions on conversational topics, speak continuously in a short monologue on personal and everyday topics, be able to give their opinions, become aware of the effect of phonological features	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Getting Started Personal Information	
	2	Asking for Information	
	3	Describing Things	
	4	Making Requests	
	5	Giving Instructions	
	6	Asking For Permission	
	7	Making Excuses and Giving Reasons	
	8	Midterm Test Review and Exam	
	9	Giving Opinions	
	10	Comparing Things	
	11	Giving Advice and Making Suggestions	
	12	Talking About Experiences	
	13	Inviting	
	14	Making Predictions	
	15	Personal Goals and Dreams	
	16	Final Test Review and Exam	
	テキスト・参考文献・資料など Fifty-Fifty Book Two Third Edition 1. Randall's Cyber Listening Lab http://www.esl-lab.com/ 2. ELLLO http://www.elllo.org/english/home.htm 3. VOA http://www.voanews.com/english/news/ 4. National Geographic http://www.nationalgeographic.com/		
	学びの手立て		
	評価 1. Six brief dialog or other oral presentations 30% 2. Attendance & participation 30% 3. Final test 30% 4. 10 hours listening 10% If you are absent 10 times you cannot pass this course and will have to repeat it.		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication III	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	デビッド レイフィールド	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
-------	-----	-------

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Week 1: 7 April. Introductions, Textbook Unit 0.	
	2	Week 2: 11 & 14 April, Unit 1 'Have you two met?'	
	3	Week 3: 18 & 21 April, Unit 2 'You must be excited'	
	4	Week 4: 9 & 12 May, Unit 3 'Going Places'	
	5	Week 5: 16 & 19 May, Unit 4 'I love that!'	
	6	Week 6: 23 & 26 May, Unit 5 'Why?'	
	7	Week 7: 30 May & 2 June, Unit 6 'What's it like there?'	
	8	Week 8: 6 & 9 June, Review Unit 1	
9	Week 9: 13 & 16 June, Unit 7 'Do you remember when...?'		
10	Week 10: 20 & 23 June, Unit 8 'Making Plans'		
11	Week 11: 27 & 30 June, Unit 9 'What should I do?'		
12	Week 12: 4 & 7 July, Unit 10 'Tell me a story'		
13	Week 13: 11 & 14 July, Unit 11 'In my opinion'		
14	Week 14: 18 & 21 July, Unit 12 'Looking Ahead'		
15	Exam Week 25-29 July.		
16	Make Up Classes in August.		
	テキスト・参考文献・資料など Marc Helgesen, Steven Brown & Thomas Mandeville English Firsthand 2 New Gold Edition. Pearson Longman 2008		
	学びの手立て		
	評価 A Mid Term test (Oral and written) A Final Test (Oral and written) Participation in Class		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication III	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-ライト ヒレル アテン	2年		

学びの準備	ねらい The aim of this course will be for students to improve their ability to communicate in English. In order to maximize speaking time, students will do some of their work in pairs or small groups. I expect students to refrain from speaking in Japanese and to speak English as often as possible.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction to class and methods, self-introductions	
	2	Extemporaneous speeches (for evaluation purposes)	
	3	Traffic & the environment in Okinawa	
	4	Language & Travel	
	5	Education & Family	
	6	Marriage & Career (staying single)	
	7	Prepared speeches & Classroom Q & A	
	8	Friendship & Finances	
9	Food & Health		
10	Cyber bullying & extemporaneous speeches		
11	Aging & personal responsibility		
12	Higher education & classroom Q & A		
13	International relationships & Prepared speeches		
14	Social networks & film ("The Social Network")		
15	Graded conversations (pairs or small groups)		
16	Final Exam (Listening comprehension)		
	テキスト・参考文献・資料など Impact Issues (New Edition) by R.R. Day, J. Shaules & J Yamanaka, Pearson/Longman, ISBN 978-962-01-9931-8. In addition, students should bring a B5 notebook and an electronic dictionary to every class.		
	学びの手立て		
	評価 Students will be evaluated based on attendance, class participation, homework, in-class speeches, graded conversation and listening comprehension test.		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication III	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	グレイ クエン ビデオ	2年		

学びの準備	ねらい to improve students english speaking and listing skills	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1. Intro: Nuts and Bolts	
	2	2. Intro: Meet and Greet	
	3	Unit 1	
	4	Unit 1	
	5	Unit 1	
	6	Unit 2	
	7	Unit 2	
	8	Unit 2	
	9	Unit 2	
	10	Unit 2	
	11	Unit 3	
	12	Unit 3	
	13	Unit 3	
	14	Unit 3	
	15	Unit 3	
16	Unit 3		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など Widets N/A
	学びの手立て

学びの実践	学びの手立て
	評価

学びの実践	評価
	Class attendance and ACTIVE participarion in small group discussions will constitute 50-60% of students' final grade. Weekly preparation will add 10-15%. Final exam/presentation will account for 15-25%, with the balance being construed of weekly in-class persentations. Percentages will fall to the benefit of the student. (i.e. I will focus on your stro ng suits, to a limited degree).

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication III	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ジョン ケーバート	2年		

学びの準備	ねらい The class will include a variety of pair / group / class activities to develop communication skills. Topics will include : giving presentations, pair and group discussions and studying key phrases that are used in daily conversation.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など There is no assigned textbook for this class. The instructor will provide materials to be used in class.
	学びの手立て
	評価 The final grade will be based on quizzes, attendance, participation, pair / group work, presentations and homework assignments related to class activities. Students will be expected to use English as much as possible in class.

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	観光英語	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-東 菜美	3年		

学びの準備	ねらい 英語の一般的能力だけでなく、観光業界の専門用語や独特の言い回しを学び、海外旅行や観光事業に従事する上で役に立つ英語の能力を身に付ける。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス、オリエンテーション	
	2	観光概論、観光基礎知識	
	3	沖縄の観光 序章「添乗英語の特徴」	
	4	航空業界 第1章「機内で」	
	5	日本の航空会社 第1章「機内で」	
	6	機内サービス 第1章「機内で」	
	7	機内サービス 第1章「機内で」	
	8	空港業務 第1章「機内で」	
	9	空港業務 第2章「空港到着」	
	10	出入国審査 第2章「空港到着」	
	11	検疫・税関検査 第2章「空港到着」	
	12	ホテル 第3章「ホテル1」	
	13	ホテル 第3章「ホテル1」	
	14	中間試験、観光英検過去問題・模擬問題	
	15	ホテル 第4章「ホテル2」	
	16	ホテル 第4章「ホテル2」	
	17	ショッピング 第5章「自由行動の案内1」	
	18	通貨 第5章「自由行動の案内1」	
	19	乗り物 第6章「自由行動の案内2」	
	20	乗り物 第6章「自由行動の案内2」	
	21	レストラン 第7章「レストランで」	
	22	メニュー 第7章「レストランで」	
	23	世界の料理 第7章「レストランで」	
	24	世界の料理 第7章「レストランで」	
	25	観光地 第8章「観光・視察」	
	26	世界遺産 第8章「観光・視察」	
	27	トラブル対応 第9章「事故処理」	
	28	トラブル対応 第9章「事故処理」	
	29	日本の観光 第10章「現地での移動と帰国」	
30	日本の観光 第10章「現地での移動と帰国」		
31	期末試験		

	<p>テキスト・参考文献・資料など 「ツアーコンダクターの英語 English for Tour Leaders Overseas」 ジェイティービー能力開発 沖縄県観光学習教材ワークブック 沖縄県観光商工部観光振興課</p>
学 び の 実 践	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価 講義における参加、貢献度と中間試験、学期末試験の結果を総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	1年		

学びの準備	ねらい レポートの作成・発表、スピーチ、ディベート等の活動を通して日本語による文章力、発表力の向上を目指します。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） コース前半は日本語によるグループ発表、個人スピーチ、後半は英語の個人スピーチ、ワークショップを行います。
	テキスト・参考文献・資料など 講義の中で適宜配布します。 授業の中で紹介します。

学びの実践	学びの手立て
	評価 授業態度（出席状況、発言）、ブックリポート、グループレポート、グループ発表、個人発表を総合的に評価します。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	漆谷 克秀	1年		

学びの準備	ねらい 「読む」「話す」「調べる」「書く」の基礎能力を培う。プリントを用いて生きた文章のポイントを口述し、原稿用紙(400字)による実作練習を繰り返す。思ったようには書けないのが当たり前で、「書く」事には技術が必要です。誤字のない、理解しやすい簡潔な表現を目指します。夏休みに、ゲーテの『ファウスト』を読み、レポートを作成する。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 1週： 講師と受講生の自己紹介、授業のガイダンス 2週： 原稿用紙の使い方、 3週： 表現空間－接続詞、文の長さ－「が」 4週： 文末表現、全称的判断 5週： 比喩、呼応 6週： 語句の係り受け、 7週： 用語と語感、 8週： 同語の反復、 9週： 句読点 10週： 紛らわしい語－自動詞・他動詞 11週： 漢字とかな 12週： 簡潔な表現 13週： 翻訳調 14週： 助詞 15週： 前期のまとめ
	テキスト・参考文献・資料など プリントを配布します。 ゲーテ『ファウスト』第一部、第二部、池内紀訳 (集英社文庫) 本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫)
	学びの手立て
	評価 出席を確認します。10回前後の原稿提出があります。出席と仕事の量で評価します。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 實	1年		

学びの準備	ねらい アカデミックレポートの書き方を中心に学習しながら、レポート作成に必要な文章力の向上を目指します。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第1週 オリエンテーション 第2週 キャリアガイダンス 第3週 図書館オリエンテーション 第4週 文章トレーニング (1) ことばとは・文章とは・アカデミックレポートとは 第5週 文章トレーニング (2) アカデミックレポートの形式1 第6週 文章トレーニング (3) アカデミックレポートの文章2 第7週 文章トレーニング (4) アカデミックレポートの文章1 第8週 文章トレーニング (5) アカデミックレポートの文章2 第9週 文章トレーニング (6) アカデミックレポートの文章3 第10週 課題発表1 第11週 文章トレーニング (7) アカデミックレポートの文章4 第12週 文章トレーニング (8) アカデミックレポートの文章5 第13週 文章トレーニング (9) アカデミックレポートの文章6 第14週 文章トレーニング (10) アカデミックレポートの文章7 第15週 課題発表2 第16週 まとめ
	テキスト・参考文献・資料など プリンと教材を準備する 講義の中でそのつど紹介する。

学びの実践	
-------	--

学びの実践	学びの手立て 評価 出席率、授業態度、授業への貢献度、レポートの内容および課題発表の出来
-------	--

学びの実践	
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅰ	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	松田 節子	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この演習と後期の基礎演習Ⅱを通して大学での学業に必要な読解能力と表現能力を培う。前期の演習Ⅰでは、新聞記事、雑誌記事、随筆などを読んでその内容について全員でディスカッションする。ディスカッションを通して、論点の捕らえ方、要点の纏め方、論理的な意見の述べ方などを練習する。続いて、各自興味のあるテーマを選んで調べ、その内容を口頭で発表する。発表した内容はレポート	
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1回 オリエンテーション	
	2	2回 テキストの読み合わせと自己紹介の仕方	
3	3回 テキストの読み合わせと文章の読み方		
4	4回 新聞記事、雑誌記事、随筆などを読んでのディスカッションー1		
5	5回 新聞記事、雑誌記事、随筆などを読んでのディスカッションー2		
6	6回 新聞記事、雑誌記事、随筆などを読んでのディスカッションー3		
7	7回 個人発表の準備（レジユメの書き方、発表の仕方、レポートのまとめ方など）		
8	8回 個人発表ー1		
9	9回 個人発表ー2		
10	10回 個人発表ー3		
11	11回 個人発表ー4		
12	12回 個人発表ー5		
13	13回 個人発表ー6		
14	14回 個人発表ー7		
15	まとめ（授業評価を含む）		
16	レポート提出		
	テキスト・参考文献・資料など 選定中 個人の発表テーマに応じて適宜紹介する。		
	学びの手立て		
	評価 出席率、課題、発表、レポート、およびクラス・ディスカッションへの貢献度を見て総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	1年		

学びの準備	ねらい 「読む」、「話す」、「聞く」、「書く」の四技能の実践的な訓練を通して、大学における学習方法の基礎力を培い、同時に、論理的な思考に根ざした日本語の運用能力を向上させることを目標とする。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 前半は、カードの使い方、論の組み立て方などを、ディスカッションや作文を通して練習する。 後半は、各回ごとに指定された日本語のテキストについて、指名されたグループがその大意とテーマを発表し、これを土台にして全員が問題点を議論する。発表するグループは、大意、テーマ、議論すべき問題点などをまとめた「発表報告書」を事前に作成し、発表の際に全員に配布する。また、授業の後に、そのテーマに関するレポートを書き、提出すること。（レポートの提出については、前期前半も同じ。）授業で指定されたテキストは、全員必ず読んでくること。
	テキスト・参考文献・資料など プリント教材を用いる。 『知的生産の技術』梅棹忠夫、岩波新書 『日本語の作文技術』本多勝一、朝日文庫 その他、適宜紹介する。
	学びの手立て
	評価 レポート：60%、発表・発言：40%

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	1年		

学びの準備	ねらい 「読む」「書く」「話す」「聞く」の四技能の実践的な練習を通じて、大学で学ぶための必要な「日本語力」の育成を目標とする。個人発表、グループ発表の際には、レジメを準備し内容を簡潔に明瞭にまとめ、分かりやすく話す。また、指定されたテキストを読み、それぞれのグループで大意とテーマをまとめ、発表し、それをもとに、全員でディスカッションを行う。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 実際の授業の進め方（授業の展開計画）に関しては、別に詳しいシラバスを作成し最初の授業で配布する。
	テキスト・参考文献・資料など 配布資料と参考文献を中心に講義を行う。 参考図書リストをクラスで配布する。
	学びの手立て
	評価 総合的に評価するが、特に平常点を重視する。依って出席率、提出物、担当課題の口頭発表、授業への参加状況などが重視される。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	1年		

学びの準備	ねらい 和文の学術論文を読み、内容を要約し、発表する活動を通して、日本語の「読む」「書く」「話す」技能の更なる向上を図ります。また、英語による授業に対応できるよう英語によるコミュニケーション活動も取り入れます。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 前半は、日本語によるスピーチ、グループレポート作成及び発表、後半はパワーポイントを使用した英語スピーチを練習します。
	テキスト・参考文献・資料など 講義中に適宜配布します 講義中に連絡します
	学びの手立て
	評価 授業態度（出席状況、発言）、スピーチ、グループレポート、ブックリポートを総合的に評価します

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	漆谷 克秀	1年		

学びの準備	ねらい 夏休みのレポートを基に口頭発表を行う。最初に発表予定を決める。発表者はレジュメを用意して、予定に従って口頭発表をする。『ファウスト』に含まれるヨーロッパのモチーフやテーマ、ゲーテやその時代の文化、芸術などを発表をとして触れる。またそれが、現代を生きる私たちの問題として認識できることを願う。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1週： 授業のガイダンス、発表予定の作成、 2週： レジュメの作り方 3週： 口頭発表（2名） 4週： 同上 5週： 同上 6週： 同上 7週： 同上 8週： 同上 9週： 同上 10週： 同上 11週： 同上 12週： 同上 13週： 同上 14週： 同上 15週： 同上、最終レポートの提出
	テキスト・参考文献・資料など ゲーテ『ファウスト』、第一部、第二部、池内紀訳、（集英社文庫） レポート作成の際に必要な文献は、個々のテーマに即した文献を、図書館などで調べてください。
	学びの手立て
	評価 出席を確認します。提出されたレポートと授業への参加量で判断します。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 實	1年		

学びの準備	ねらい 基礎演習Ⅰで学習したことを前提に、さらにアカデミックレポートの書き方を中心に学習しながら、レポート作成に必要な文章力の向上を目指すとともに、各自レポート作成を行う。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1週 オリエンテーション 第2週 キャリアガイダンス 第3週 図書館オリエンテーション 第4週 文章トレーニング（1） 第5週 文章トレーニング（2） 第6週 文章トレーニング（3） 第7週 文章トレーニング（4） 第8週 文章トレーニング（5） 第9週 文章トレーニング（6） 第10週 課題発表1 第11週 文章トレーニング（7） 第12週 文章トレーニング（8） 第13週 文章トレーニング（9） 第14週 文章トレーニング（10） 第15週 課題発表2 第16週 まとめ
	テキスト・参考文献・資料など プリント教材を準備します。 授業の中でそのつど紹介します。
	学びの手立て
	評価 出席率、授業態度、授業への貢献度、レポートの内容および課題発表の出来

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	松田 節子	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>前期の基礎演習Ⅰに続き、大学での学業に必要な読解能力と表現能力を培う。後期はグループ発表形式を取り、特定のテーマ（例：早期英語教育、バイリンガル教育）について賛否の立場から意見を述べる練習をする。テーマはグループごとに定めることとし、発表するグループはそれぞれの論点を1000字程度にまとめたレジュメと参考文献リスト・資料をゼミのメンバー全員分準備し、配布する</p>	
到達目標		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1回 夏休みについての報告	
	2	2回 テキストの読み合わせ	
	3	3回 テキストの読み合わせ	
	4	4回 テキストの読み合わせ	
	5	5回 意見の述べ方ー1（レジュメおよびレポートの書き方）	
	6	6回 意見の述べ方ー2（論点を押さえた意見の述べ方）	
	7	7回 グループ発表ー1	
8	8回 グループ発表ー2		
9	9回 グループ発表ー3		
10	10回 グループ発表ー4		
11	11回 グループ発表ー5		
12	12回 グループ発表ー6		
13	13回 グループ発表ー7		
14	14回 グループ発表ー8		
15	まとめ（授業評価を含む）		
16	レポート提出		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 選定中 各グループの発表テーマに応じて適宜紹介する。		
学びの手立て			
評価	出席率、課題、発表、レポート、および討論への貢献度などを見て総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	1年		

学びの準備	ねらい 「読む」、「話す」、「聞く」、「書く」の四技能の実践的な訓練を通して、大学における学習方法の基礎力を培い、同時に、論理的な思考に根ざした日本語の運用能力を向上させることを目標とする。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>前半は、各回ごとに指定された日本語のテキストについて、指名されたグループがその大意とテーマを発表し、これを土台にして全員が問題点を議論する。発表するグループは、大意、テーマ、議論すべき問題点などをまとめた「発表報告書」を事前に作成し、発表の際に全員に配布する。また、授業の後に、そのテーマに関するレポートを書き、提出すること。授業で指定されたテキストは、全員必ず読んでくること。後半は、全員がそれぞれのテーマで比較的長いレポート（論文形式）を仕上げることを目指し、アウトラインのたて方、資料の収集、個人発表などを中心として授業を進めていく予定。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>プリント教材を用いる。 ただし、前半は、テキストを使用する予定。 『知の技法』小林康雄・船曳建夫編、東京大学出版会 その他、適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>前半の作文：30%、発表・発言：20%、個人発表10%、自由レポート：40%</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	1年		

学びの準備	ねらい 前期の「基礎演習Ⅰ」に引き続き、大学の授業や研究発表の場で必要な読解能力、文章表現能力、口頭発表能力を培う。指定されたテキストを読み、グループで分担し内容を要約、レジュメを作成して発表する。また、個人で興味あるテーマを選んで調べ、比較的長いレポートを仕上げることを目指し提出する。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 実際の授業の進め方（授業の展開計画）については、別に詳しいシラバスを作成し最初の授業で配布する。
	テキスト・参考文献・資料など 配布資料と参考文献を中心に講義を行う。 参考図書リストをクラスで配布する。
	学びの手立て
	評価 総合的に評価するが、特に平常点を重視する。依って出席率、提出物、担当課題の口頭発表、授業への参加状況などが重視される。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	2年		

学びの準備	ねらい The aim of this course is to provide guidelines, strategies and practice in writing term papers and summaries. Students will learn how to prepare for a term paper through a series of individual and group activities.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction	
	2	Prewriting: Topics	
	3	Prewriting: Sources	
	4	Library workshop (1)	
	5	Prewriting: Taking notes	
	6	Library workshop (2)	
	7	Organizing your paper: Thesis statement	
	8	Organizing your paper: Outline	
9	Writing the first draft: Title & style		
10	INTRODUCTION		
11	BODY (1)		
12	BODY (2)		
13	CONCLUSION		
14	Avoiding plagiarism		
15	Evaluating and rewriting		
16	Final draft		
	テキスト・参考文献・資料など To be announced in class.		
	学びの手立て		
	評価 Attendance & Class Participation (40%). Homework (20%). Term Paper (40%).		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	クレイグ K ジェロブソン	2年		

学びの準備	ねらい This course is designed to assist students in improving their ability to choose a research topic, gather information from libraries, the Internet and other sources, analyze that information, present it in a written English report and then make an oral presentation based on that report. This first half of the course will give more attention to developing English.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Registration and Course Introduction	
	2	Student Self Introductions	
	3	Introduction to research methods	
	4	Introduction to Rashamon and In a Grove	
	5	Kurosawa's Rashamon	
	6	Group discussions of Rashamon	
	7	Submission of Rashamon Research Paper first draft	
	8	Return of Rashamon Research Paper first draft	
	9	Submission of Rashamon Research Paper final draft	
	10	Selection of Paper Topics	
	11	Library Search Exercise	
	12	Library Search Check	
	13	Submission of Research Plan	
	14	Individual Consultations	
15	Submission of Introduction		
16	Return of Introduction		
	テキスト・参考文献・資料など There is no text for this class.		
	学びの手立て		
	評価 Students will be evaluated based on their written reports, oral presentations, homework, and class participation. Students will also be evaluated on their attendance and their ability to meet deadlines.		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ピーター シンプル	2年		

学びの準備	ねらい The aim of this course is to build on students' English study skills so as to conduct academic discussions, and produce academic texts and presentations in English.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など No textbook is required for this class.
	学びの手立て
	評価 Evaluation is by continuous assessment based on course work, participation and attendance, and self-evaluation

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>The seminar will be conducted as a workshop: students will be provided a large selection of reading materials from which to choose, be given ample time to read during class, and be asked to share their reactions to various books. Through extensive reading, students should develop greater independence and more confidence in their English reading abilities.</p>	
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction, using the extensive reading library	
	2	Discussion about reading, writing a good essay	
	3	DUE: "Reading and You" handout / Discussion about reading	
	4	DUE: Read 「多読 (Extensive Reading) について」 Short test and discussion	
	5	Presentations: Introduce a book DUE: Reading Notebooks (3 weeks)	
	6	Presentations: Introduce a book	
	7	Library guidance	
	8	DUE: Reading Notebooks (3 weeks) Discussion: Talking about literature	
	9	Test on assigned book. Discussion: Talking about literature	
	10	Movie (in English with English captions)	
	11	Discussion of movie and book DUE: Reading Notebooks (3 weeks)	
	12	Groups for poster projects	
	13	Working on posters	
14	Poster presentations		
15	DUE: Reading Notebooks (Okinawa literature, short stories)		
16	Final exam and evaluations Early August: Seminar House		
	テキスト・参考文献・資料など Students will not be required to buy any textbooks but will be allowed to borrow graded readers and other books from the instructor. Students should bring a B5 notebook and an electronic dictionary to every class.		
	学びの手立て		
	評価 Students will be evaluated based on class performance, journals, and how much reading they do. In general, students must read more than 35 pages / week to receive a passing grade (可); more than 45 pages / week to receive a 良; and more than 55 pages / week to receive a 優. Three latenesses will count as one absence. Students should read 15 extra pages for each absence.		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	柴崎 礼士郎	2年		

学びの準備	ねらい 高学歴ワーキングプアが叫ばれ始めた頃から、上の世代が作り上げたルールに乗るだけで満足してはいけない時代に突入した。つまり、「正解」や「答え」の無い時代に我々は生きている。本講義では、文章作成の基礎を確認するとともに、「発想力」「分析力」「要約力」等のトレーニングをする。発表と質疑応答を通して、参加者にとつての「最善解」を導き出すことを狙いとする。日々の学習を	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>テキストの分担発表と並行して、例えば以下のようなトレーニングも行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・即席スピーチ → 即断力 ・書評の練習 → 要約力 ・無声映画の文章化 → 発想力 ・絵の描写 → 説明力 <p>*** 選定するテキストにより、内容が多少変更する場合もある ***</p> <p>上掲トレーニングは近い将来の就職活動とも関わりが深い。そこで、「企業分析とプレゼンテーション」をグループ毎にもらい、質疑応答などを通じた実践練習も考えている。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>選定中につきTBA。 小笠原信之 2011『伝わる!文章力が身につく本—できる人は文章も上手い!』高橋書店. ¥1,200 (税別). 近藤勝重 2011『書くことが思いつかない人のための文章教室』幻冬舎新書. ¥780 (税別). 瀧本哲史 2011『武器としての決断思考』星海社 ¥820 (税別).</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>①出席率 ②クラスでの作業 ③質疑応答など授業への貢献度 ④課題、等</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ピーター シンプル	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>自分で研究テーマを探し、文献を読んでテーマを様々な角度から考察した上で、自分の考えを文章にまとめるという主体的な学習が大学では求められる。この授業では、テーマの探し方、リサーチの仕方、アウトラインの作り方、論文の書き方の基礎を学び、実際に自分で小論文を書く練習をする。また、自分で選んだテーマについて各自が発表し、クラスで討論を行い、それぞれのテーマについてよ</p>	
到達目標		

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1週～7週</p> <p>下記の項目について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 調査の仕方・文献の探し方 2. 論文の書き方（論文の構成、引用や註について） 3. 研究テーマの設定 4. アウトラインの作成 5. 口頭発表の仕方 <p>第8週～16週</p> <p>各自が自分で選んだテーマについて口頭発表を行う。各発表の後に、質疑応答、討論の時間を設ける。自分の選んだテーマについて小論文を書き、学期末に提出する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>プリントを配布する。</p> <p>授業中に紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>小論文50%、提出課題20%、発表20%、出席・授業参加10%</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習IV	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ピーター シンプル	2年		

学びの準備	ねらい The aim of this course is to build on students' English study skills so as to conduct academic discussions, and produce academic texts and presentations in English.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など No textbook is required for this class.
	学びの手立て
	評価 Evaluation is by continuous assessment based on course work, participation and attendance, and self-evaluation.

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習IV	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	クレイグ K ジェロブソン	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>This course is designed to assist students in improving their ability to choose a research topic, gather information from libraries, the Internet and other sources, analyze that information, present it in a written English report and then make an oral presentation based on that report. This second half of the course will give more attention to developing oral</p>	
到達目標		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Course Introduction and Registration	
	2	Individual Consultations	
	3	Submission of Introduction and Body	
	4	Return of Draft	
	5	Individual Consultations	
	6	Submission of First Full Draft	
	7	Return of Draft	
	8	Submission of Second Draft	
	9	Return of Draft	
	10	Individual Consultations	
	11	Submission of Final Draft	
	12	Oral Presentations Preparation Day	
	13	Oral Presentations	
14	Oral Presentations		
15	Oral Presentations		
16	Oral Presentations		
テキスト・参考文献・資料など There is no text for this class. Students should follow the standards of the APA Publication Manual.			
学びの手立て			
評価 Students will be evaluated based on their written reports, oral presentations, homework and class participation. Students will also be evaluated based on their attendance and their ability to meet deadlines			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習IV	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	柴崎 礼士郎	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	英文文章構成の理解を目的とする。最低限の英語能力の体得は本学科の学生には必須と判断するからである。世間を見渡せば、「企業内英語公用語化」「TOEIC高得点者には好待遇」等々、英語力向上を願う風潮が見てとれる。「日本人の9割に英語はわからない」との意見もあるが、本学科の学生は残りの1割であろう。しかし、押し寄せる国際化の波は、恐らく、日本国外の方が高いのかもしれない	
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>詳細はTBA。グループ発表と質疑応答が中心となります。英文テキストを用いるため、練習問題を解くなど予習には十分な時間を割いてもらい、内容を理解した上で授業に参加してほしい。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>現在選定中。TBA。 黒木登志夫 2011『知的文章とプレゼンテーションー日本語の場合、英語の場合』中公新書。 ¥800（税別） 倉島保美 2006『英語プレゼンテーションの技術』日本経済新聞社。 ¥2,200（税別） ISSコンサルティング（編）2011『外資系トップの英語力』ダイヤモンド社。 ¥1,500（税別）</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>①出席率 ②クラスでの作業 ③質疑応答など授業への貢献度 ④課題、等</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習IV	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	2年		

学びの準備	ねらい This course focuses on skills and practice in giving oral presentations. Students will acquire basic presentation skills through a variety of individual and group activities.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Review; abstract writing	
	2	Proofreading: self and peer editing	
	3	Mini presentations	
	4	The physical message (1)	
	5	" (2)	
	6	" (3)	
	7	The visual message (1)	
	8	" (2)	
9	The story message (1)		
10	" (2)		
11	" (3)		
12	" (4)		
13	Final performance		
14	Oral presentation (1)		
15	" (2)		
16	" (3)		
テキスト・参考文献・資料など To be announced in class.			
学びの手立て			
評価 Attendance & Class Participation (40%). Homework (20%). Oral Presentation (40%).			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語学概論Ⅰ	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	柴崎 礼士郎	2年		

学びの準備	ねらい 言語学の歴史は古い。古いということは様々な学派や理論があるということである。そこで言語学概論Ⅰでは、言語学を概観するアプローチを取り、ことばの学習上、より重要と思われるトピックを中心に講義を行う。学問的な重い響きを払拭するため、言語学というより「ことば学」として捉えたい。ことばを学習・習得できるのは人間だけであるという点で、「人間学」の基本と捉えても差し支えない。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 開講時まで塾考するためTBA。 関連分野との学問的交流の意味で、数人のゲスト・スピーカーを予定している。
	テキスト・参考文献・資料など 現在選定中。開講時に指示する。 大津由紀雄（編）2009『はじめて学ぶ言語学』京都：ミネルヴァ書房。 ¥2,800. 瀬田幸人・他（編）2010『入門 ことばの世界』東京：大修館書店。 ¥1,890.
	学びの手立て
	評価 ①出席 ②課題 ③テスト ④授業への貢献度、等

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語学概論Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	柴崎 礼士郎	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>言語学概論Ⅰでは言語学を概観することを狙いとしました。そこで、言語学概論Ⅱでは一歩踏み込んだアプローチを試みる。音韻論・形態論・統語論・意味論などの導入・説明・理解の後に、琉球沖縄という地理的特徴を活かした考察を試みたい。つまり、社会言語学・言語人類学・危機言語などという、隣り合わせの言語事情を考えてみたい。ことば学の視点から、琉球沖縄という地理的空間の魅力・意</p>	
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>開講時まで塾考するためTBA。 関連分野との学問的交流の意味で、数人のゲスト・スピーカーを予定している。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>現在選定中。開講時に指示する。尚、図書館の「指定図書」も参考にして下さい。 S・ロメイン 1997『社会の中の言語』東京：三省堂。 ¥2,800. C・アジェージュ 2004『絶滅していく言語を救うために』東京：白水社 ¥7,140.</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>①出席 ②課題 ③テスト ④発表 ⑤授業への貢献度、等</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語研究特論	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ダニエル ロング (世話役: 尚 真貴子)	3年		

学びの準備	ねらい 日常的なことばに関する様々なデータを通じて、社会の中の言語使用について勉強する。授業のねらいは5点にある。(1)日本語にある「変異」(バリエーション)を客観的に捉えること。(2)日本語の変化に関する調査結果を批判的に読み、変化の要因を抽出すること。(3)言語意識研究に用いられる様々な手法を学ぶこと。(4)外国人の話す間違った日本語(中間言語)の原因を探り、さ	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む) 1回: 社会言語学の歴史とその研究領域 2回: 属性とことば 3回: 場面によるコード切り替え 4回: 敬語の運用 5回: 言語行動 6回: ことばと文化 7回: 多言語状況 8回: 言語接触 9回: 言語変化 10回: フォリナー・トーク 11回: 言語意識 12回: 母語の獲得 13回: 第二言語の習得 14回: 観光資源としての方言(言語景観) 15回: 言語政策、旧植民地(サイパン、パラオ)の残存日本語にみられる沖縄の影響 16回: 試験
	テキスト・参考文献・資料など 『社会言語学図集 改訂版』真田信治、ダニエル・ロング、他(2010)秋山書店2100円 『世界の言語景観 日本の言語景観』桂書房 『マリアナ諸島に残存する日本語—その中間言語的特徴—』明治書院
	学びの手立て
	評価 積極的な授業参加(「出席」ではなく、質問したり意見を言ったりするという「参加」) 40% 試験 60%

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際コミュニケーション論	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	柴崎 礼士郎	3年		

学びの準備	ねらい コミュニケーションについての定義は多種多様である。しかし、「コミュニケーション能力」と「言語能力」はイコールではないとの指摘には留意すべきであろう。コミュニケーション能力の一部に、言語能力、異文化適応能力、あるいは教養力などが含まれるのであろう。本講義では国際ビジネスの視点からコミュニケーションの在り方を考察する。国際ビジネスにおける成功と失敗の要因として、	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 開講時まで塾考するためTBA。
	テキスト・参考文献・資料など 現在選定中につきTBA。開講時に指示します。 亀田尚己 2009『国際ビジネスコミュニケーション再考』東京：文真堂。 ¥3,150. 馬越恵美子・桑名 義晴・異文化経営学会 2010『異文化経営の世界—その理論と実践』白桃書房。 ¥3,460. R. Scollon & S. W. Scollon. 2000. Intercultural Communication. Oxford: Blackwell.
	学びの手立て
	評価 ①出席 ②課題 ③テスト、等

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	コミュニケーション概論	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 円	3年		

学 び の 準 備	ねらい 日常の様々な事象がコミュニケーションとどの様に関わっているかを最近のコミュニケーション学の成果を概観して把握する。	メッセージ
	到達目標	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など 「コミュニケーション学—その展望と視点」 授業で随時紹介する。
	学びの手立て
	評価 毎回の授業の出席率、2回の試験の結果、クイズ (随時)、授業における積極性を総合して評価します。

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目
-----------------------	-------------

科目基本情報	科目名 CALL教授法	期別	曜日・時限	単位
		前期		4
	担当者 野口 正樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年		

学びの準備	ねらい 本講義は、英教法 I 及び英語教材研究では扱えない CALL 機器を活用した教授実践を行います。従って、英教法履修者は、“原則”履修することが望ましいです。先ず、CALL 教室の可能性を一斉授業の中で確認します。次に、教師卓の機器使用法を受講者一人ひとりに demo を通じて伝えます。最後に、受講生各自が教師となり、CALL 機器を使用した授業を行います。その際、CALL 教授にふさわ	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で連絡します。 講義内で別途配布または連絡します。
	学びの手立て
	評価 ① 授業出席度 (原則皆勤) ② presentation ③ 個人・相互評価 ④ 質疑応答 ⑤ 課題 ⑥ 受講姿勢 ⑦ 教材作成 ⑧ CALL 教授実践

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	時事英語	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ピーター シンプソン	2年		

学びの準備	ねらい This class will be designed and redesigned through a process of negotiation based on students priorities, unfolding events in Okinawa, Japan and the world, and previous media projects which I have been involved with in Okinawa. Possibilities are likely to include an examination of reports into the recent Tohoku catastrophe, and appropriate courses of action	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) Course structure will be organised after an initial needs assessment.
	テキスト・参考文献・資料など Students are not required to buy a textbook, but please read the newspapers and watch TV news!
	学びの手立て
	評価 Evaluation will also be negotiated with the class, but is likely to include attendance, group work, and a final report.

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	柴崎 礼士郎	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「英語」に関する何気ない疑問を見過ごしていないだろうか。本演習では、そうした疑問を再考しながら英語の現在や未来を読み解いていく。世界語としての英語、国際語としての英語、等の用語が飛び交う一方で、Singlish、Chinglish、Spanglish等々、各地で大量発生する英語の形態をあらわす「パングリッシュ」(Panglish)という語も生まれた。これはギリシア語のpan「すべて」とEnglishを</p>	
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>テキストを決めてグループ発表を毎回行います。ハンドアウト配付、質疑応答など、基礎的なことが要求されます。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>年度末まで熟考するため現時点で未定。 河原俊昭・川畑松晴 2006『アジア・オセアニアの英語』めこん. ¥2,500 (税別) ジェームズ・スタンロー 2010『和製英語と日本人一言語・文化接触のダイナミズム』新泉社. ¥2,500 (税別) 堀田隆一 2011『英語史で解さほぐす英語の誤解－納得して英語を学ぶために』中央大学出版部. ¥880 (税別)</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>①出席率 ②課題 ③発表 ④授業態度</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	3年		

学びの準備	ねらい This course aims to introduce students to the basic concepts of nonverbal communication, with an emphasis on the problems and opportunities of communication in a variety of intercultural contexts.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction	
	2	Verbal vs. nonverbal communication	
	3	Body Movements & Gestures	
	4	Facial Expressions	
	5	Eye Behavior & Gaze	
	6	Paralanguage	
	7	Touching Behavior	
	8	Space & Distance	
	9	Time & Silence; Gender Differences	
	10	Clothing & Personal Artifacts	
	11	The Environment & Colors; Supervisor-Employee nonverbal relationships	
	12	Cross-cultural Differences; Teacher-Student nonverbal relationships	
	13	Other topics	
	14	Oral presentations (1)	
	15	Oral presentations (2)	
	16	Oral presentations (3)	
	テキスト・参考文献・資料など To be announced in class. To be announced in class.		
	学びの手立て		
	評価 Attendance & Class Participation (50%). Term Paper & Oral Presentation (50%).		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	3年		

学びの準備	ねらい 日本語学習者は目的や背景等多様化しており、学習者のニーズに答えられる教員の養成が必要とされている。そこで第二言語としての日本語の習得研究と日本語教育について、色々なテーマを取り上げていく。さらに言葉としての日本語だけでなく、社会・心理的側面、言葉の扱い方、教え方及び日本語学習者にとって役立つ課題を捉えていく。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 実際の授業の進め方（授業の展開計画）については、最初の授業の際に、詳しいシラバスを配布する予定である。
	テキスト・参考文献・資料など テキストはプリント教材を準備する。 参考図書は適宜紹介する。
	学びの手立て
	評価 出席率＋課題＋発表＋授業への貢献度

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ピーター シンプソン	3年		

学びの準備	ねらい The themes developed in this seminar will be negotiated with students, but will involve group presentations and written work based on my own interests and those of the students. These include, but are not limited to social, cultural, political and linguistic issues and all levels of society from the global to the local.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Course Registration and Introduction	
	2	Mapping the World Exercise	
	3	Research Topics, Resources and Methods	
	4	World Views (Small Group Meeting)	
	5	Fieldwork and Group Consultations	
	6	Global Systems and Organizations (NGOs etc.) (Group Research Plans)	
	7	The Environment	
	8	War and Peace, Economic Justice, Human Rights	
	9	Fieldwork and Group Consultations	
	10	Group Presentations (Group Papers due)	
	11	Group Presentations (Group Papers due)	
	12	Individual Topics Selection	
	13	Fieldwork and Individual Consultations	
	14	Submission of Research Plan including Bibliography for Individual Report	
15	Fieldwork and Individual Consultations		
16	Work in Progress Oral Presentations		
テキスト・参考文献・資料など No Text Students should be prepared to use the APA Publication Manual style sheet examples.			
学びの手立て			
評価 Students will be evaluated based on attendance, group work, class participation and written assignments.			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	3年		

学びの準備	ねらい 映画の視聴、精聴、シャドーイング、スクリプトの音読、ディスカッション等を通してコミュニケーション能力の向上を図る。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 各チャプターを字幕なしで理解できるように、チャプター内の語彙や重要表現の確認、精聴、音読等の活動をペア・グループの形態で行う。
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で連絡する 授業の中で適宜紹介する

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で連絡する 授業の中で適宜紹介する
-------	--

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 授業態度（出席状況、発言）、演習、提出物、クイズを総合的に評価する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	3年		

学びの準備	ねらい 英語の『なぜ?』に答える形で講義を行います。“I'm loving it.”はなぜ進行形で表現出来るのか。“psychology”の“p”はなぜ発音されないのか。日本語では家畜名「豚」に「肉」を付けるだけで食肉の「豚肉」になるのに、英語では“pig”を“pork”と表現し、“pig meat”と普通なぜ表現しないのか。“look”は視線を向けて見るはずなのに、“He looks happy.”と「...のように見える」とい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で適宜配布します。 講義内で別途配布または連絡します。
	学びの手立て
	評価 ① 授業出席度 (原則皆勤) ② presentation ③ 疑問解明度 ④ 質疑応答・全体討論 ⑤ task 評点 ⑥ 受講姿勢

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	柴崎 礼士郎	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は大きく2部構成である。1つは、認知言語学の立場から英語と日本語を比較検討することである。もう1つは、コンピュータ処理が可能な言語データである「コーパス」を用いた英語学習である。僅か20年程前までは、英語母語話者の口にする英語が全てであり、英語学習書の真偽のほどは確認不可能な時代であった。しかし、コーパスが一般に公開され、素人から専門家までが個々人のレヴェ	
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>テキスト講読による学習、コーパス利用による学習、ディスカッションによる意見交換の3つが中心です。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>現在選定中につきTBA。開講時に指示します。コーパスに関する資料は担当者が用意します。尚、図書館の「指定図書」も随時参考にして下さい。</p> <p>堀 正広（2011）『例題で学ぶ英語コロケーション』研究社。 鈴木寛次・三木千絵（2011）『英語は将来こう変わる』大修館書店。 李 在鎬・石川慎一郎・砂川有里子（近刊[2012]）『日本語教育のためのコーパス調査入門』くろしお出版。</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>①出席率 ②課題 ③発表 ④授業態度</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	3年		

学びの準備	ねらい This course is designed to help students develop an awareness of the contemporary research on gesture and acquire the basic skills in observing and gestures in interpersonal communication.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction/Review	
	2	Gesture Studies: Introduction; History; Analysis	
	3	Gesture Studies: Functions; Classification; Theories	
	4	Review of L2 Gesture Studies (1)	
	5	Review of L2 Gesture Studies (2)	
	6	Why do we gesture?	
	7	Research Methods (1): Data collection	
	8	Research Methods (2): Transcription & Analysis I	
	9	Research Methods (3): Transcription & Analysis II	
	10	Other related topics	
	11	Project (1)	
	12	Project (2)	
	13	Project (3)	
	14	Oral presentations (1)	
	15	Oral presentations (2)	
	16	Oral presentations (3)	
	テキスト・参考文献・資料など To be announced in class. To be announced in class.		
	学びの手立て		
	評価 Attendance & Class Participation (50%). Term Projects & Oral Presentation (50%).		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	専門演習Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	3年		

学 び の 準 備	ねらい 日本語教育を含めさまざまなテーマに関する論文を徹底的に読み込んでいく。その際に担当者はレジюмеを作成し発表する。その後、個人またはグループでテーマの設定、資料収集、調査、分析、考察、発表など一連の研究のプロセスを体験することにより、卒業論文の作成を行うための基本的な知識、技術を身に付ける。	メッセージ
	到達目標	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 実際の授業の進め方（授業の展開計画）については、最初の授業の際に、詳しいシラバスを配布する予定である。
	テキスト・参考文献・資料など テキストはプリント教材を準備する。 参考図書は適宜紹介する。
	学びの手立て
	評価 出席率＋課題＋発表＋授業への貢献度

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目
-----------------------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ピーター シンプル	3年		

学びの準備	ねらい This course is a continuation of Third Year Seminar I. Students will complete their research projects and make oral presentations based on those projects.	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Course Registration and Introduction	
	2	Fieldwork and Individual Consultations	
	3	Submission of Introduction and Body	
	4	Return of Introduction and Body	
	5	Submission of Full First Drafts	
	6	Return of First Drafts	
	7	Fieldwork and Individual Consultations	
	8	Submission of Second Drafts	
	9	Return of Drafts	
	10	Individual Consultations	
	11	Deadline for Final Drafts	
	12	Preparations for Oral Presentations	
	13	Oral Presentations	
14	Oral Presentations		
15	Oral Presentations		
16	Oral Presentations		
テキスト・参考文献・資料など There is no text for this class. APA Publication Manual			
学びの手立て			
評価 Students will be evaluated based on their attendance, ability to meet deadlines, research paper, and oral presentation.			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	3年		

学びの準備	ねらい (1) 映画の精聴、スクリプトの音読を通して、英語4技能の向上を図る。(2) 論文作成に関する基礎知識を身につける。(3) 論文(先行研究)を読み、卒論テーマの具体化を図る。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む) コース前半は、映画の精聴及びドリルを中心に英語力の強化を図る。後半は、研究論文を読み、卒論テーマの具体化を図る。
	テキスト・参考文献・資料など 初回の講義で指示する。 講義のなかで紹介する。
	学びの手立て
	評価 授業態度(出席状況、発言)演習、提出物、クイズを総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	3年		

学びの準備	ねらい 英語の『なぜ?』に答える形で講義を行います。例えば、動詞 "go" の活用形は "go, went, gone" ですが、過去形の "went" だけ形が大きく違うのはなぜ? "Do you know him?" といいた簡単な言い方があるのに、"Do you know who he is?" といいた言い方をする/出来るのはなぜ? "I think that 文." を "I think 文." と "that" を省いて表現するのはなぜ? "play baseball" なのに "play th	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で適宜配布します。 講義内で途配布または連絡します。
	学びの手立て
	評価 ① 授業出席度 (原則皆勤) ② presentation ③ 疑問解明度 ④ 質疑応答・全体討論 ⑤ task 評点 ⑥ 受講姿勢

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	早期英語教育	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	2年		

学びの準備	ねらい 第2言語習得の理論や事例を基に、早期英語教育の概要を学びます。又、日本の早期英語教育、特に小学校英語教育の現状や課題について学習します。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 前半はグループ発表やディスカッションを通して第二言語習得や早期英語教育について学習し、後半は小学校英語の現状や課題、基本的な指導技術についてワークショップ形式で学習し、グループ単位の模擬授業を行います。
	テキスト・参考文献・資料など 講義の中で課題図書一覧を配布します 講義の中で適宜紹介します。
	学びの手立て
	評価 (1) 授業態度、クイズ、課題（グループ発表、ブックリポート）を総合的に評価します。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	4年		

学びの準備	ねらい 卒業論文作成への道筋を順を追って解説します。Title (題目) 設定に始まり, Abstract (要旨), Introduction (緒言), Method (方法: 被験者, 手順), Results (結果), Discussion (考察), Conclusion (結論), References (参考文献), Appendixes (補遺) に及びます。英語に関する topic であれば原則 acceptable です。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 4月 textbook 第1-2章 discussions 5月 textboo 第3-5章 discussions 6月 textboo 第6-8章 discussions 7月 outline 及び reference list 提出 (8-9月 個人夏季課題: 先行文献研究)
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で連絡します。 講義内で別途配布または連絡します。
	学びの手立て
	評価 ① 授業出席度 (原則皆勤) ② 発表 ③ 質疑応答 ④ 課題 ⑤ 受講姿勢 ⑥ Outline

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	柴崎 礼士郎	4年		

学びの準備	ねらい 学生生活の総仕上げとして、あるいは、社会人に向けての第一歩として、説得力のある論文を書くことを目的とする。テーマは特に定めず、言語・文化に関するものであれば特に制限を設けない。小さな関心事が実は大きな成果を生み出すかもしれない。論文とは本来こうしたものです。そのためにも、各自にとって最も興味深いテーマを選んで貰い、クラスでの中間報告などを通して焦点を絞って	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 4月： 各自のテーマを紹介・説明 5月： テーマを確定、中間報告 6月： 資料収集、中間報告 7月： 基本構成、中間報告
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で連絡します。 黒木登志夫 2011『知的文章とプレゼンテーションー日本語の場合、英語の場合』中公新書. ¥800（税別） 近藤勝重 2011『書くことが思いつかない人のための文章教室』幻冬舎新書. ¥780（税別）.
	学びの手立て
	評価 ①出席 ②発表 ③課題 ④授業態度

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	4年		

学びの準備	ねらい Students will begin working on a 15-page report that introduces one work of Okinawan literature to an English-speaking audience. Although the reports will be written in English, most of the reading and research will be conducted in Japanese. Early in the semester, we will read and discuss Medoruma Shun's 『眼の奥の森』, and students will be shown how to write	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	Introduction to the course, deciding on groups and stories
	2	Lecture on how to write an academic paper and to gather materials
	3	Short test on 『眼の奥の森』 / Discussion
	4	Discussion: writing about plot structure and characterization (『眼の奥の森』)
	5	Discussion: writing about setting and historical background (『眼の奥の森』)
	6	Discussion: writing about point of view (『眼の奥の森』)
	7	Discussion: writing about symbolism and writing style (『眼の奥の森』)
	8	Discussion: writing about theme (『眼の奥の森』)
	9	Test on student-selected works / Student presentations
	10	Student presentations of their works
	11	Overview of writing a graduation thesis
	12	DUE: Report Introductions / Discussion of student papers
	13	DUE: Plot summaries / Discussion of plot, focussing on student papers
	14	DUE: Character lists / Discussion of characterization, focussing on student papers
15	DUE: Point of view / Discussion of point of view, focussing on student papers	
16	Final REVISIONS DUE / evaluations / preview of second semester	
	テキスト・参考文献・資料など 目取真俊の『眼の奥の森』 and whatever work the student decides to write on. MLA Handbook of Writers of Research Papers. Sixth Edition. By Joseph Gibaldi.	
	学びの手立て	
	評価 Short Tests (20%), Class participation (20%), Reports (20%), Final Revision (40%)	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅰ	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	松田 節子	4年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この演習と後期の卒業論文Ⅱでは、大学生活4年間の締めくくりとして明快で論理的な論文を書くことを目的とする。テーマについてはバイリンガル教育、第二言語習得、日英語比較など、言語教育・言語文化に関するものであればとくに限定しない。前期は、まず資料の収集法、資料の読み方、論文の体裁、執筆方法など、論文作成の基本を再確認する。続いて、テーマ発表や論文の概要などにつ	
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	テキストの読み合わせ（テーマ設定・資料収集・資料の読み方などについて）	
	3	テキストの読み合わせ（テーマ設定・資料収集・資料の読み方などについて）	
	4	テキストの読み合わせ（テーマ設定・資料収集・資料の読み方などについて）	
	5	個人発表（テーマ発表および収集文献紹介）	
	6	個人発表（テーマ発表および収集文献紹介）	
	7	個人発表（テーマ発表および収集文献紹介）	
	8	個人発表（主要先行文献の要旨発表および現段階での課題について）	
	9	個人発表（主要先行文献の要旨発表および現段階での課題について）	
	10	個人発表（主要先行文献の要旨発表および現段階での課題について）	
	11	個人発表（主要先行文献の要旨発表および現段階での課題について）	
	12	個人発表（論文概要について）	
	13	個人発表（論文概要について）	
14	個人発表（論文概要について）		
15	個人発表（論文概要について）		
16	まとめおよび夏季休暇中の作業日程の確認		
	テキスト・参考文献・資料など 選定中 各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。		
	学びの手立て		
	評価 出席率、発表内容、討議への貢献度、など総合的な観点から評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 實	4年		

学びの準備	ねらい 基礎演習I~IV・専門演習I~IVで学んだことを基にして卒業論文を各自書きます。英米言語文化学科で学んだことに関する諸分野（英米文学・言語学・文化・など）から各自テーマを選び、数ヶ月かけてサーチする。その成果を卒業論文として作成するとともに、クラスで発表し、卒業論文集としてまとめる。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1週 オリエンテーション 第2週 キャリアガイダンス 第3週 図書館オリエンテーション 第4週 卒論とは・卒論のテーマ設定 第5週 卒論を書くには（1） 第6週 卒論を書くには（2） 第7週 卒論の形式・卒論テーマ発表 第8週 卒論資料検索について 第9週 卒論資料収集について 第10週 卒論資料集経過発表 第11週 資料収集 第12週 資料収集 第13週 卒論概略作成 第14週 卒論概略作成 第15週 卒論概略発表 第16週 まとめ
	テキスト・参考文献・資料など プリンと教材を準備する。 参考文献は各自のテーマに沿って紹介する。
	学びの手立て
	評価 出席率、授業態度、授業への貢献度、レポートの内容および課題発表の出来

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	4年		

学びの準備	ねらい アメリカ文学一般、及びアメリカの文化に関する論文を書くことを目指す。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>前半は、論文の書き方についてのテキストを読み、論文のテーマ、本論の構成、注や参考文献の使い方など、論文執筆のための必須事項を学ぶ。また、幾つかの文学作品を読み、グループ発表に基づきディスカッションを行う。後半から夏期休暇中にかけては、各自でテーマの設定、アウトラインの組み立て、資料の収集などの作業を行う。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『卒論を書こう』 榎木伸明、三修社 (予定)、及びプリント教材 『知的生産の技術』 梅棹忠夫、岩波新書、『レポートの組み立て方』 木下是雄、ちくまライブラリー、『知の技法』 小林康雄・船曳建夫編、東京大学出版会。その他、適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>授業への積極的な参加、テーマ・アウトラインの進捗状況により評価する。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	クレイグ K ジェロブソン	4年		

学びの準備	ねらい This class is intended to enable students to make substantial progress towards completing their graduation thesis. Research topics will be chosen by students themselves, but they are encouraged to write about areas in which they have a strong personal or career related interest. Students are also encouraged to have their topics approved by the instructor.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Registration, self introduction, course introduction	
	2	Introduction to topic selection	
	3	Introduction to research methodologies	
	4	Submission of topics and discussion	
	5	Bibliography writing, notes and plagiarism	
	6	Fieldwork and individual consultations	
	7	Submission of research plan and bibliography, etc.	
	8	Discussion of research plan and bibliography, etc.	
9	Fieldwork and individual consultations		
10	Submission of introductory paragraphs		
11	Return of introductory paragraphs		
12	Oral Presentation Preparation Day		
13	Interim Oral Presentation		
14	Interim Oral Presentation		
15	Interim Oral Presentation		
16	Interim Oral Presentation		
	テキスト・参考文献・資料など Students will be expected to draw on a range of resources which could include, but is not restricted to, books, internet sites and other media, interviews and questionnaires. Students will be expected to follow guidelines set forth in the APA Publication Manual.		
	学びの手立て		
	評価 Evaluation will be based on students' accomplishment of the tasks outlined above, as well as on regular attendance and communication with the teacher.		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	4年		

学びの準備	ねらい 前期の研究課題設定及び outline と資料収集を基に、卒論を完成させます。進捗状況を定期的に発表し、達成度に応じて個別指導を行います。また、卒論中間発表を行い、inter-class での情報交換や建設的な批評を仕上げに生かします。draft 提出1ヶ月前からは、日本語の文章表現も検討します。卒論提出後には発表会を行い、口頭発表技能を培うと共に、critique を今後の研究・教育に	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <table border="0"> <tr> <td>10月</td> <td>卒論中間発表</td> <td>(10月中または下旬予定)</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>data collection 及び polishing up</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>文章表現推敲及び draft 提出</td> <td>(12/18 2:40 PM)</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>卒論最終原稿提出</td> <td>(1/29 2:40 PM)</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>卒論発表会</td> <td>(2月初旬予定)</td> </tr> </table>	10月	卒論中間発表	(10月中または下旬予定)	11月	data collection 及び polishing up		12月	文章表現推敲及び draft 提出	(12/18 2:40 PM)	1月	卒論最終原稿提出	(1/29 2:40 PM)	2月	卒論発表会	(2月初旬予定)
	10月	卒論中間発表	(10月中または下旬予定)													
	11月	data collection 及び polishing up														
	12月	文章表現推敲及び draft 提出	(12/18 2:40 PM)													
1月	卒論最終原稿提出	(1/29 2:40 PM)														
2月	卒論発表会	(2月初旬予定)														
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義内で適宜配布します。 講義内で別途配布または連絡します。</p>																
<p>学びの手立て</p>																
<p>評価</p> <p>① 授業出席度 (原則皆勤) ② 発表 ③ 質疑応答 ④ 課題 ⑤ 受講姿勢 ⑥ 卒論</p>																

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 實	4年		

学びの準備	ねらい 基礎演習Ⅰ～Ⅳ・専門演習Ⅰ～Ⅳで学んだことを基にして卒業論文を各自書きます。英米言語文化学科で学んだことに関する諸分野（英米文学・言語学・文化・など）から各自テーマを選び、数ヶ月かけてサーチする。その成果を卒業論文として作成するとともに、クラスで発表し、卒業論文集としてまとめる。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1回 オリエンテーション 2回 卒論第1回中間発表 3回 卒論第1回中間発表 4回 卒論作成 5回 卒論作成 6回 卒論作成 7回 卒論第2回中間発表 8回 卒論第2回中間発表 9回 卒論作成 10回 卒論作成 11回 卒論作成 12回 卒論発表 13回 卒論発表 14回 卒論発表 15回 卒論発表 16回 まとめ
	テキスト・参考文献・資料など プリンと教材を準備する。 参考文献は各自のテーマに沿って紹介する。
	学びの手立て
	評価 出席率、授業態度、授業への貢献度、レポートの内容および課題発表の出来

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	4年		

学びの準備	ねらい アメリカ文学一般、及びアメリカ文化に関する論文を書くことを目指す。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>夏期休暇中までに、各自でテーマの設定、アウトラインの組み立て、資料の収集などの作業を行い、10月・11月に中間発表を行う。12月下旬に第一稿、1月中旬に第二稿を提出し、2月に完成原稿を提出する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『卒論を書こう』 榎木伸明、三修社（予定）、プリント教材 『知的生産の技術』 梅棹忠夫、岩波新書、『レポートの組み立て方』 木下是雄、ちくまライブラリー、『知の技法』 小林康雄・船曳建夫編、東京大学出版会。その他、適宜紹介する。</p>

学びの実践	<p>学びの手立て</p>
-------	---------------

学びの実践	<p>評価</p> <p>原則として、完成論文の提出者には単位を与えるが、中間発表、授業への積極的な参加、完成論文などを総合的に考慮して成績の評価を行う。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p>
-------	--------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	クレイグ K ジェロフソン	4年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>This class is intended to enable students to complete their graduation thesis, and to use this achievement as a means to consider their potential contribution to society after graduating. As well as submitting a graduation thesis, through group work and presentations, the class aims to facilitate communication about important issues and create lasting friend</p>	
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Second Semester Registration, Course Introduction	
	2	Fieldwork and individual consultations	
	3	Submission of Body (minimum of 10 pages)	
	4	Return of body	
	5	Resubmission of entire Body	
	6	Fieldwork and individual consultations	
	7	Submission of entire first draft including Cover Page, Outline, Text, Bibliography, Notes	
8	Return of first draft		
9	Submission of second draft		
10	Return of second draft		
11	Individual Consultations		
12	Submission of final drafts		
13	Oral Presentations		
14	Oral Presentations		
15	Oral Presentations		
16	Oral Presentations		
	テキスト・参考文献・資料など Students will be expected to draw on a range of sources which could include, but is not restricted to, books, internet sites and other media, interviews and questionnaires. Students should follow the standards of the APA Publication Manual.		
	学びの手立て		
	評価 Evaluation will be based on students' accomplishment of the tasks outlined above, as well as on regular attendance and communication with the teacher.		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	柴崎 礼士郎	4年		

学びの準備	ねらい 中間報告を通じたディスカッション形式でクラスを進めたい。各自のテーマが出揃った段階で関連文献の読み合わせもクラスで行う。また、学生同士の意見交換や本格的な発表練習も兼ねたセミナー合宿も考えている。少しでも質の高い論文になるように配慮したい。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 10月： 夏期休暇中の成果を発表（10月末に第1稿提出） 11月： 論文再構成（11月末に第2稿提出） 12月： 中間報告（12月末に第3稿提出） 1月： 最終報告（1月中に最終稿提出）
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で連絡します。 授業の中で紹介します。
	学びの手立て
	評価 ①出席 ②発表 ③授業態度 ④締切り厳守

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	4年		

学びの準備	ねらい Students will complete their graduation theses and present their work to the class. The thesis will consist of a 15-page report that thoroughly introduces one work of Okinawan literature to an English-speaking audience. Students will also be expected to revise their reports after receiving feedback from the instructor and other students. At the end of the semester	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	Introductions and review of first semester.
	2	DUE: Works Cited / discussion focussing on student work
	3	DUE: Symbolism and imagery / discussion focussing on student work
	4	DUE: Writing style / discussion of style, focussing on student work
	5	DUE: Criticism / discussion focussing on student work
	6	Group discussion: theme of works
	7	DUE: Theme / discussion of theme, focussing on student papers
	8	FIRST DRAFTS DUE
	9	Pair check: Students evaluate each other's papers.
	10	Individual conferences / Revision of papers
	11	Individual conferences / Revision of papers
	12	FINAL DRAFTS DUE / Lecture: Giving effective presentations
	13	Working on presentations with teacher feedback.
	14	PowerPoint presentations
	15	PowerPoint presentations
	16	Review / Evaluations
	テキスト・参考文献・資料など There is no text, but students should have a copy of the work that they are writing about. Students should also have a B5 notebook. MLA Handbook of Writers of Research Papers. Sixth Edition. By Joseph Gibaldi.	
	学びの手立て	
	評価 Final Report (75%), PowerPoint presentation (25%)	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	松田 節子	4年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	前期の卒業論文Ⅰに引き続き、卒業論文をまとめあげていくことを目的とする。後期は夏季休暇中におおよそ書き上げた各自の論文について中間発表をすることから始める。発表する時は、レジュメ、参考文献リストおよび資料を準備し、ゼミのメンバー全員に配布する。この段階で論文の体裁、参考文献リストの様式などについて再度チェックする。あわせて、発表後の討議と講評を参考に論文をよ	
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	中間発表（討議および講評）	
3	中間発表（討議および講評）		
4	中間発表（討議および講評）		
5	中間発表（討議および講評）		
6	中間発表をうけての個人面談および指導		
7	中間発表をうけての個人面談および指導		
8	中間発表をうけての個人面談および指導		
9	中間発表をうけての個人面談および指導		
10	中間発表をうけての個人面談および指導		
11	下書き原稿提出		
12	下書き原稿返却、加筆修正		
13	下書き原稿加筆修正		
14	最終原稿提出		
15	論文最終発表会（学外ゼミ）		
16	卒業論文集作成		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。 各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。		
	学びの手立て		
	評価 出席、発表内容、討議への貢献度、卒業論文の内容、など総合的な観点から評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	第2言語習得論	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	松田 節子	2年		

学びの準備	ねらい 子どもの第一言語習得（母語習得）はほとんど例外なくうまく行くのに、思春期以降の第二言語習得（英語習得）はなぜ多くの場合うまく行かないのか。第二言語習得には決まった順序があるのか。やる気があれば第二言語習得は成功するのか。聞くだけで第二言語ができるようになるのか。このような第二言語習得（英語習得）にまつわる素朴な疑問について、第二言語習得研究から考える。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第二言語習得論とは	
	2	子どもはどのように母語を習得するのか	
	3	学習者の誤りは第二言語習得とどのように関わっているのか	
	4	プレゼンテーション	
	5	学習者の母語は第二言語習得にどのような影響を与えるのか	
	6	学習者は第二言語を決まった順序で習得していくのか	
	7	第二言語習得に大切なのはインプットかアウトプットか	
8	中間テスト		
9	年齢は第二言語習得にどのような影響を及ぼすのか		
10	個人差は第二言語習得とどのように関係するのか（1）		
11	個人差は第二言語習得とどのように関係するのか（2）		
12	プレゼンテーション		
13	社会文化要因は第二言語習得とどのように関係するのか		
14	第二言語コミュニケーション能力とは		
15	全体のまとめと補足		
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 選定中（授業開始時に指示する。） 適宜配布する。		
	学びの手立て		
	評価 出席、課題、プレゼンテーション、授業態度、授業への貢献度、テストの結果などから総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Discussion Skills	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-ジヨン ターバート	3年		

学びの準備	ねらい This class is designed to help students improve their ability to communicate using English. This class will include a variety of pair/group/class activities to develop communication skills, with a focus on group discussions. Some topics that will be covered in this course are expressing opinions, giving presentations (individual and group) and participating	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) This course aims to develop students' communication skills through discussion. Group discussions will be an important part of class, with a focus on problem-solving group discussions. Students will learn the basic structure of group discussions, as well as how to become an effective group leader/participant. Topics will be chosen by students, and students will be expected to give presentations on problems for discussion both individually and in groups.
	テキスト・参考文献・資料など There is no assigned textbook for this class. The instructor will provide materials to be used in class.
	学びの手立て
	評価 The final grade will be based on attendance, participation, pair/group work, presentations (individual and group) and homework assignments related to class activities. As there are no tests or quizzes, your grade will depend largely on the effort you put into class. Do not expect to receive a passing grade simply by coming to class. In order to pass this class, you must actively and effectively participate in class. You must also come to class prepared.

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Debate	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	3年		

学びの準備	ねらい The aim of this course is to introduce students to the theory and practice of debate, with an emphasis on actual debating. Students will also receive some guidance in public speaking, especially as it pertains to debate.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction to class and methods, self-introductions	
	2	Differences between debate and conversation, types of debate	
	3	The value of debate, debate and culture, developing a critical attitude	
	4	Principles of debate, preparing for a debate, outlining	
	5	Basics of public speaking	
	6	Debate 1 (easy topic)	
	7	Introduction to policy debate	
	8	Debate preparation in groups	
	9	Debate preparation in groups	
	10	Debate 2 Resolved: That English Should be Taught in All Japanese Elementary Schools	
	11	Evaluation of Debate 2, choosing topic for final debate	
	12	Debate preparation in groups	
	13	Debate preparation in groups	
	14	Debate rehearsal and critique	
	15	Debate 3: Formal Policy Debate on a Student-Chosen Topic	
	16	Review	
	テキスト・参考文献・資料など No textbook is required. However, students will be required to bring an electronic dictionary and a B5 notebook to every class. Students are expected to take extensive notes during class. None.		
	学びの手立て		
	評価 Grades will be calculated as follows: class participation (10%), short test (10%), notes and evaluations (10%), easy debate (10%), simplified policy debate (25%), and full-blown policy debate (35%). However, students must attend at least 70% of all classes to receive a passing grade. DO NOT BE ABSENT FOR THE DEBATES.		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	同時通訳	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋 美智子	3年		

学びの準備	ねらい 通訳者の心構え、準備などについて述べ、訓練メニューの説明を行う。リスニング強化、英語要約を行う。音読重視。逐次通訳及び同じテキストを用いてサイトラ、同時通訳の基礎訓練を行う。ペアワークについて学ぶ。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	通訳について、訓練メニュー、単語増強の必要性、リスニング強化について
	2	テキスト1：シャドーイング、英語要約、逐次通訳、ノートテイキング
	3	テキスト2：英語のインタビューを聞いて英語で要約を行う。新聞英語のサイトラを行う。
	4	テキスト2：同じテキストでメモ、逐次通訳を行う。プロの通訳をテープやDVDで聞く。
	5	テキスト2：同じテキストでサイトラ、同時通訳練習、ペアでプレゼンを行う。
	6	テキスト3：数字の英語を聞いて通訳用メモを取り、日本語でアウトプットする。
	7	テキスト4：映画の記者会見とプロの逐次通訳を聞く。通訳分析を行う（レポート提出用）
	8	テキスト4：「通訳の極意」から日本語→英語へのサイトラ・トランスレーションの練習
	9	テキスト5：日本語のスピーチを聞いて英語での要約を行う。逐次、同時通訳の訓練を行う。
	10	テキスト5：同じテキストでサイトラ、同時通訳練習、プレゼンを行う（ペアで）
	11	テキスト6：英語のスピーチを聞いて要約をする。メモ、逐次通訳を行う。
	12	テキスト7：日本語のエッセイを聞いて英語で要約、メモ取りのプレゼンを行い、逐次通訳。
	13	テキスト7：同じテキストでサイトラ、同時通訳練習、プレゼン（ペアワーク）
	14	期末テストのリハーサル：PC録音のため、一度リハーサルを行う。
15	期末テストは通訳実技テストを録音する（同時通訳1つ、サイトラ・トランスレーション1つ）	
16		
	時間外学習の内容	
	テキスト・参考文献・資料など	
	1. 「通訳の極意」 著者：小林敦夫（こばやしあつお） 出版社：（株）南雲堂フェニックス 03-3202-5625 2. 講師の作成する自主テキスト（新聞記事、online記事、スピーチ及びインタビューテキスト、DVD など） 1. 「トレンド日米表現辞典」小学館 03-3230-5745 2. 電子辞書（少なくとも20万語以上の英語辞書、広辞苑） 3. 通訳翻訳ジャーナル 4. 英語字幕付きのシネマ 5. 単語増強用ノート	
	学びの手立て	
	評価	
	1. 学期の終了時に通訳実技テストを行う（成績は5段階で評価。3以上が講座を修了することができる） 2. 出席に関しては全クラスのうち三分の二以上を修了の条件とする。出席を重視する。 3. 課題として「プロ通訳パフォーマンス分析」のレポートを提出する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日英語比較研究	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	松田 節子	3年		

学びの準備	ねらい この講義では日本語と英語の比較を行い、日本語らしさ、英語らしさの要因を整理する。整理の方法としては、日本人学習者が英語を習得する際に困難を感じる問題点を取り出し、構文、意味、音韻、発想などの各見地から英語との比較研究を試み、それらの困難点を克服する方法を探る。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本語の特質	
	2	語彙と意味の比較（単語と意味の対応関係、色彩語彙の比較）	
	3	語順の比較（OV言語とVO言語）	
	4	プレゼンテーション	
	5	発音の比較（音韻構造とアクセント）	
	6	文の構造と主語の比較（主語の立て方、主語の顕示と暗示）	
	7	プレゼンテーション	
8	問題点の整理とまとめその1		
9	時に関する比較（テンスとアスペクト）		
10	肯定・否定に関する比較（否定の内容と肯定文、部分否定、否定疑問に対する答え）		
11	プレゼンテーション		
12	待遇表現に関する比較（ポライトネス）		
13	表現構造の比較（<スル>的な言語と<ナル>的な言語）		
14	文化と発想の比較（ことわざ）		
15	問題点の整理とまとめその2		
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 選定中（講義開始時に指定する。） 適宜紹介する。		
	学びの手立て		
	評価 出席、プレゼンテーションの内容と発表態度、授業への貢献度、テストなど総合的な観点から評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語現代文法 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	柴崎 礼士郎	1年		

学びの準備	ねらい 外国語の理解や習得に長けていても、日本語に関して説明に窮する場合も多々ある。本講では日本語の基礎的な文法事項を取り扱いながら、日本人が見落としがちな日本語の特性、または、外国人が間違え易い日本語の特徴を学んでゆく。外国語の視点から日本語を再考する。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1-2週： 品詞と語の構造 第3-4週： 動詞 第4-5週： 形容詞 第6-7週： 判定詞 第8-9週： 助動詞 第10/11週： 中間テスト 第12/13週： 名詞 第14週： 指示詞 第15週： その他 第16週： 期末試験 *** 選定するテキスト・理解度により、内容が多少変更する場合もある ***
	テキスト・参考文献・資料など 年度末まで熟考するため現時点で未定。 荒川洋平 2009『日本語という外国語』東京：講談社現代新書 ¥740（税別）。 森山卓郎（編）2009『国語からはじめる外国語活動』東京：慶応義塾大学出版会。 ¥2,310.
	学びの手立て
	評価 ①出席率 ②課題 ③試験 ④授業態度

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語現代文法Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	柴崎 礼士郎	1年		

学びの準備	ねらい 前期で学習した事項を踏まえ文法事項を更に理解してゆく。後期は受講者の理解度を確認するために、グループ作業を行う予定である。項目ごとに担当グループを決めてクラス発表を行う。授業では発表の補足あるいは更に理解を深めるための指導を行う。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1-2週： 助詞 第3-4週： 構文 第4-5週： ボイス 第6-7週： テンス・アスペクト 第8-9週： ムード 第10/11週： 単文・複文 第12/13週： 接続表現 第14週： その他 第15週： 総復習 第16週： 試験 *** 選定するテキスト・理解度により、内容が多少変更する場合もある ***
	テキスト・参考文献・資料など 年度末まで熟考するため現時点で未定。 荒川洋平 2007『続・もしも…あなたが外国人に「日本語を教える」としたら』スリーエーネットワーク ¥1,260. 荒川洋平・森山新 2009『日本語教師のための応用認知言語学一わかる!!』凡人社 ¥1,500（税別）
	学びの手立て
	評価 ①出席率 ②課題 ③試験 ④授業態度 ⑤発表内容

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語表現法演習 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-ケリ 綾子	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは、外国語を習得するための土台となります。そのためには、母語を正確に、効果的に使用することが必要です。この授業は、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。前期は、周りや自分の使っている日本語に意識を向けます。これまで気がつかなかった身近な言葉のおもしろさを発見するとともに</p>	
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション クラスメートを知ろう	
	2	偏愛マップ 自己紹介について	
	3	自己紹介 (各自 約2~3分)	
	4	ウチナーヤマトゥグチ (1) 動詞の活用	
	5	ウチナーヤマトゥグチ (2) 助詞	
	6	ウチナーヤマトゥグチ (3) 沖縄地域共通語	
	7	ウチナーヤマトゥグチ (4) 沖縄の若者ことば	
8	ウチナーヤマトゥグチ (5) レポートの書き方 レポートの課題提示		
9	敬語 (1)		
10	敬語 (2)		
11	敬語 (3)		
12	敬語 (4)		
13	テスト		
14	日本語検定 3級		
15	日本語検定 解答		
16	日本語検定 解答		
	テキスト・参考文献・資料など ハンドアウトを使用します。 適宜指示します。		
	学びの手立て		
	評価	出席率、授業態度、発表、宿題の提出などから、総合的に評価します。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語表現法演習 I	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	元山 由美子	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは、外国語を習得するための土台となります。そのためには、母語を正確に、効果的に使用することが必要です。この授業は、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。前期は、周りや自分の使っている日本語に意識を向けます。これまで気がつかなかった身近な言葉のおもしろさを発見するとともに	
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など ハンドアウトを使用する。 適宜指示する。
	学びの手立て
	評価
	出席率、授業態度、発表、宿題の提出などから 総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語表現法演習Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	元山 由美子	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは、外国語を習得するための土台となります。そのためには、母語を正確に、効果的に使用することが必要です。この授業は、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。後期は、調べる、書く、発表するなどのアカデミック・スキルのトレーニングをします。具体的には、「日本語表現法演習Ⅰ」を踏	
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など ハンドアウトを使用する。 適宜指示する。
	学びの手立て
	評価
	出席率、授業態度、発表、宿題の提出などから 総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語表現法演習Ⅱ	後期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-ケリ 綾子	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは、外国語を習得するための土台となります。そのためには、母語を正確に、効果的に使用することが必要です。この授業は、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。後期は、書く、調べる、発表するなどのアカデミック・スキルズのトレーニングをします。具体的には、「日本語表現法演習Ⅰ」を踏	
到達目標		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション プロジェクトワークの目的	
	2	ウチナーヤマトゥグチ復習 文体、文章の書き方	
	3	プロジェクトワークについて グループ分け、トピック決定	
	4	プロジェクトワーク（1） アンケート質問事項作成	
	5	プロジェクトワーク（2） クラス内で試しアンケート	
	6	プロジェクトワーク（3） アンケート項目別に予測をたてる	
	7	プロジェクトワーク（4） アンケート集計、考察	
8	プロジェクトワーク（5） 発表準備、レジュメ、発表資料作成		
9	プロジェクトワーク（6）		
10	発表練習 各グループで口頭練習		
11	発表（1）		
12	発表（2）		
13	発表（3）		
14	発表（4）		
15	発表（5）		
16	まとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など ハンドアウトを使用する。 適宜指示する。		
	学びの手立て		
	評価	出席率、授業態度、発表、宿題の提出などから、総合的に評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Public Speaking	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	3年		

学びの準備	ねらい The aim of this course is to introduce students to the basics of public speaking, with an emphasis on speaking extemporaneously. Students will receive training and instruction in delivery, speech preparation, audience analysis, outlining a speech, gesturing, using props and visual aids, persuasion, researching a topic, and critiquing a speech.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	Introduction to class and methods, overview of public speaking, self-introductions
	2	Basics of the speechmaking process, delivering your speech
	3	PAINFUL EXPERIENCE SPEECHES and discussion of speeches
	4	Preparing your speech: choosing a topic, analyzing the audience, and gathering information
	5	Preparing your speech: organizing your speech, writing effective introductions
	6	INFORMATIVE SPEECHES
	7	Discussion and evaluation of speeches
	8	Capturing and maintaining audience attention
	9	Organizing a persuasive speech
	10	Persuading an audience
	11	PERSUASIVE SPEECHES
	12	Discussion and evaluation of speeches
	13	Using props and visual aids
	14	Using Power Point effectively
15	FINAL SPEECHES	
16	FINAL SPEECHES	
	時間外学習の内容	
	テキスト・参考文献・資料など No textbook is required; however, students should bring an electronic dictionary and B5 notebook to every class. Numerous handouts will be distributed during class.	
	学びの手立て	
	評価 Grades for speeches will be assigned based on student evaluations, submitted notes, and teacher observation. Grade percentages will be assigned as follows: painful experience speech (15%), informative speech (30%), persuasive speech (40%), and evaluation of other speeches (15%). However, if there is time to give a final speech, these percentages will change.	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス英語	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-島袋 美智子	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ビジネスのシーンに必要な英語表現を学びます。テキストは2つ用意しましたので音声の発音、ペアでのロールプレイなどを行います。クラスが大きい場合はグループに分けてロールプレイを行います。発声を重視しますので出来るだけ英語を口に出して下さい。英文履歴書、Eメールの書き方、オフィス英語、注文や決済書などビジネスで必要な事項を学びます。グループ活動によるプレゼンも予定</p>	
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>テキストに沿った概要 (案)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会議とプレゼンテーション 2 展示会の開催 3 顧客や納入業者と取引する 4 ビジネストリップの通信手段 5 取引相手に会う 6 出張のこと 7 飛行機での出張 8 宿泊施設 9 オフィスの日々の仕事 10 社内コミュニケーション 11 印刷物の取り扱い 12 電話とファクシミリ 13 コンピュータと事務機器 14 お金の事 15 オフィスのメンテナンス
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イラストでわかるビジネスの英語表現 IBCパブリッシング ￥2310 2. イラストでわかるオフィスの英語表現 IBCパブリッシング ￥2310 <ol style="list-style-type: none"> 1. Interactive Business English on DVD Seibido出版 2. English in 30 Seconds 南雲堂出版 (DVD付) 3. Web sites での情報収集。The Wall Street Journalなど。
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学期末にテストを実施する (成績は5段階で評価。3以上が講座を修了することができる)。 2. 出席に関しては全クラスのうち四分の一以上の欠席がある場合は履修を認めない。出席重視。 3. プレゼンテーション、グループワーク、ペアワークへの積極的参加を重視する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Pronunciation Workshop	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-グレイ クエン ビデオ	2年		

学びの準備	ねらい Develop students understanding of English pronunciation	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Intro	
	2	unit 1	
	3	unit 2	
	4	unit 3	
	5	unit 4	
	6	unit 5	
	7	unit 6	
	8	unit 7	
	9	unit 8	
	10	unit 9	
	11	unit 10	
	12	unit 11	
	13	unit 12	
	14	unit 13	
15	unit 14		
16	unit 15		
	テキスト・参考文献・資料など pronunciation in use N/A		
	学びの手立て		
	評価 Class attendance and ACTIVE participation will be paramount. Desire to improve and willingness to work will serve you well.		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Pronunciation Workshop	後期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	2年		

学びの準備	ねらい This course helps students understand English pronunciation and overcome the areas they find most challenging. Specifically, students will learn how to master individual sounds, word stress, rhythm, connected speech, reduction, phrasing, and intonation.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction	
	2	Consonants (1)	
	3	Consonants (2)	
	4	Consonants (3)	
	5	Review; Quiz I	
	6	Vowels (1)	
	7	Vowels (2)	
	8	Vowels (3)	
	9	Review; Quiz II	
	10	Accent & Rhythm	
	11	Liasion	
	12	Reduction	
	13	Review; Quiz III	
	14	Phrasing	
	15	Intonation	
	16	Review; Quiz IV	
	テキスト・参考文献・資料など To be announced in class.		
	学びの手立て		
	評価 Attendance & class participation (50%), Quizzes (50%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	翻訳研究	前期		4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	3年		

学びの準備	ねらい このクラスでは、本格的な翻訳を教えるにあたり、特に英文を日本語に翻訳することに重点をおいて行う。また、生徒に翻訳における専門的な知識と、翻訳家に必要とされる技術を学んでもらうことを何よりの目的とする。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容と方法の説明、翻訳紹介	
	2	翻訳の種類、依頼者のニーズ、翻訳家の仕事、簡潔な翻訳	
	3	課題1 レシピ	
	4	道具、辞書、ウェブサイト、本格構成、TMソフトウェア	
	5	課題2 運転免許証	
	6	課題3 ユーモアテキスト	
	7	課題4 広告テキスト	
	8	課題5 ビジネス通信	
9	課題6 ビジネス通信		
10	課題7 文学テキスト		
11	課題8 文学テキスト		
12	グループ活動 アメリカのテレビ番組を日本語に訳して、日本語の吹き替え版を作ります。		
13	グループ活動		
14	グループ活動		
15	吹き替え版の録音		
16	吹き替え版の録音 / 公開		
	テキスト・参考文献・資料など この講義ではテキストは必要ないが、受講生は電子辞書とB5のノートを毎回持ってくること。配布された資料や翻訳する際参考にした資料をコピーして持って来てもらうこともある。		
	学びの手立て		
	評価 生徒の評価は、講義での発言や提出物が15%、宿題の課題が35%、最終のグループ発表が25%、最終ノート提出が25%である。受講者は少なくとも75%以上の出席と、欠席の際の補修は完璧に提出しなければならない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------